



Title	村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書（3）
Author(s)	Lindskog, Sven Sebastian; 野村, 涼; 麻, 子軒 et al.
Citation	
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/73835">https://doi.org/10.18910/73835</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 村上春樹翻訳調査プロジェクト 報告書(3)



2020 年 3 月

研究代表者  
金水 敏





## 巻 頭 言

金水 敏

(大阪大学)

『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書』の第3号をお送りする。本プロジェクト設立の経緯については、報告書第1巻をご覧ください。第1巻は大阪大学リポジトリ「OUKA」で無償公開されている（アクセス方法については下欄参照）。

第3号には、セバスティアン・リンドソコグ氏、野村涼氏、麻子軒氏と金水の3本の論文を収めることができた。今号より、村上春樹作品およびその翻訳について直接言及のないものであっても、将来的にその研究につながる可能性のある論文については掲載することとした。リンドソコグ氏の論文は、村上春樹の『騎士団長殺し』のスウェーデン語訳について分析し、特にその台詞に日本語の敬語体系の影響があることや、キャラクター「騎士団長」の話し方を古めかしく感じさせる方法等について述べている。野村氏の論文は、日本語のロールプレイングゲームの英訳について述べたものであるが、日本語フィクションの英訳一般について示唆を与える内容になっている。麻子軒氏の論文は、『1Q84』のキャラクターの話し方について、コレスポンデンス分析という統計分析手法によって分類を行い、話し方の違いを可視化する試みを示している。金水の論文は、『騎士団長殺し』の「騎士団長」が用いる「あらない」という語法について、日本語史の観点から分析を試みたものである。中村三春（監修）・曾秋桂（編集）『村上春樹における共鳴』（淡江大学出版中心、2019年）に掲載されたものに加筆修正を行った増補版である。

本号より、科学研究費助成事業「「役割語・キャラクター言語の翻訳可能性・翻訳手法についての研究」（研究代表者：金水 敏）の予算によって編集・発行を行った。

※『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書（1）～（2）』が収められている大阪大学リポジトリ「OUKA」のURLは下記の通り。

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

また、googleなどの検索エンジンで「大阪大学リポジトリ 村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書」で検索すれば、直接アクセスすることが可能である。

※本プロジェクトの活動は、随時下記ブログで公表されるので参照されたい。

「SKの役割語研究室」：<http://skinsui.cocolog-nifty.com/sklab/>



## 目 次

巻頭言..... 金水 敏（大阪大学）

### 目次

- 1 『騎士団長殺し』のキャラクターのスウェーデン語への翻訳の仕方について  
..... Sven Sebastian Lindskog（大阪大学） 1
- 2 日本のロールプレイングゲーム（JRP G）の英語翻訳における役割語・キャラクター言語の  
表現手法 — 「古い英語表現」に着目して— .... 野村 涼（スタンフォード大学） 13
- 3 『1Q84』における役割語とキャラクターの機能に関する一考察  
— コレスポネンス分析を用いて— ..... 麻 子軒（大阪大学） 25
- 4 村上春樹作品と日本語史の「共鳴」 — 『騎士団長殺し』騎士団長の「あらない」再考—  
..... 金水 敏（大阪大学） 39
- 著者情報（2020 年 3 月現在） ..... 49



# 『騎士団長殺し』のキャラクターのスウェーデン語への 翻訳の仕方について

Sven Sebastian Lindskog  
(大阪大学文学研究科)

## 1 はじめに

本論文の目的は、村上春樹の『騎士団長殺し』を中心に、本小説のキャラクターの特徴ある話し方がスウェーデン語においてどのように翻訳されているかを調査し、日本語とスウェーデン語におけるキャラクターの言語的な特徴付けにどのような相違点・共通点があるかを調査したものである。

本論文では、Vibeke Emond 氏により 2019 年に翻訳された『騎士団長殺し』のスウェーデン語版 (*Mordet på Kommendören* という) を中心に、本小説に出てくるいくつかのキャラクターの翻訳の仕方を調査した。特に「騎士団長」というキャラクターは、二人称代名詞「諸君」を単数形として使うことや、打消しとして「あらない」を用いるなど、翻訳に際して問題となるいくつかの特徴的な話し方を持っている点で興味深い。これらの言葉を含め、『騎士団長殺し』で出て来るさまざまなキャラクターの特徴的な言葉遣いがどのようにスウェーデン語に翻訳されたかを調査するのが本論文の目的である。

## 2 先行研究

リンドソグ (2018) では、『海辺のカフカ』で登場するキャラクターの日本語とスウェーデン語の言語的な相違点・共通点の調査が行われた。結果として、一人称代名詞について、日本語と異なり、スウェーデン語では、人称の一致があるため、日本語のように人称代名詞が省略できない場合がある。またスウェーデン語では、日本のような展開した敬語が存在していないため、『海辺のカフカ』の主人公であるナカタの「丁寧さ」がどのように翻訳されたかを調べることも試みた。その結果として、ナカタというキャラクターは、原文と同様にスウェーデン語による翻訳文でも、話し相手との人間関係に関わらず敬語を多用することが明らかになった。スウェーデン語の敬語を表すため、ナカタは、ほぼ誰に対してでも敬称 *fru/fröken/herr*<sup>1</sup> や、複数二人称代名詞 *ni/er* を単数として使うことが多かった。しかし、原文の話し方と異なり、ナカタは親友のホシノのみにより親しい話し方をする。例えば、ホシノの名前に敬称をつけず、丁寧な二人称代名詞 *ni* の代りに非丁寧な *du* を用い

---

<sup>1</sup> *Herr* は男性に対して用いる敬称であり、*fru* は既婚で、*fröken* は未婚の女性に対して使う敬称である。

ることも分かった。また、『海辺のカフカ』の翻訳者の一人であるYukiko Duke氏とのやり取りで、ナカタの話し方を翻訳した際に、どのように考えたかを伺ったところ、Duke氏は、以下のように述べている。

「(中略) 母と私は、作品を翻訳する際に、できるだけ原文に近い言語に翻訳する。

(その所為で、英語版を読んだだけで日本語が話せない方から批判をうけた。スウェーデン語版は、英語版のようにヒップ(＝クールとほぼ同義)ではないから。しかし、日本語話者は、スウェーデン語版は原文に近いと思っている。村上は、アメリカ人が翻訳するようにクールではない。)(中略)

ナカタは、少し古めかしい言葉遣いを用いるが、それは彼の丁寧な話し方の奇妙さに注目するためである。ナカタの話し方の古めかしさ以外、スウェーデン語の新しい敬語を作らず、翻訳した。

『海辺のカフカ』の翻訳者のDuke氏は、できるだけ原文に近い言語に翻訳したが、日本語が話せない方からかなり批判をうけたと述べている。Duke氏が『海辺のカフカ』を翻訳して以来、村上春樹作品の翻訳者は、Vibeke Emondに変わった。Emond氏は、『1Q84』や、本論文で取り扱う『騎士団長殺し』を翻訳しているが、翻訳者が変わったことで言語自体は、どのように翻訳されているかを調査したい。

### 3 調査結果

#### 3.1 日本語に影響されたスウェーデン語

結論から言うと、スウェーデン語版の『騎士団長殺し』の言語は、日本語の敬語のシステムに影響されていると考えられる。現代スウェーデン語では、日本語のような発達した敬語が存在していないのだが、本作品では現代スウェーデン語とは少し異なった体系の敬語が使われている。最も著しい言葉遣いは、二人称代名詞の *du* と *ni* の使い分けである。二人称の *ni* は、*du* の複数形であるものの、話し相手に単数形として用いると、敬語に相当する丁寧な二人称代名詞となる。しかし、現代スウェーデン語の日常会話では、*ni* があまり用いられないのに対し、『海辺のカフカ』のように『騎士団長殺し』の会話でも多用されることが見られる。原文の会話の参加者は、「だ体」「です体」の間柄により、スウェーデン語版でも *du* か *ni* が使われることも変わる。例えば、『騎士団長殺し』の無名の主人公は、元妻のユズ、彼女や友人の政彦というキャラクターに対して「だ体」を用い、以下の用例の下線部で分かるように、*du* に翻訳される。また、前述の聞き手のキャラクターも主人公に対して *du* を用いている。

(1) ユズ→主人公（元恋愛関係）<sup>2</sup>

”Det går bra vilket som för min del. Gör som du tycker.” (p.49)

「私としてはどちらでもいいのよ。あなたの好きにすればいい」 (p.55)

(2) 雨田政彦→主人公（友人関係）

”Det gör inte jag alls. Jag tycker bara att operor är långa och långtråkiga. Det finns en massa gamla skivor här, så du får gärna lyssna på vad du vill. (中略)” (p.56)

「おれはとてもだめだよ。オペラなんて長くて退屈なだけだ。そこに山ほど古いレコードがあるから、好きなだけ聴けばいい。(中略)」 (p.64)

(3) 主人公→彼女（恋愛関係）

”Hur är det möjligt? Du som har en så vacker kropp” (p.64)

「どうしてかな。こんなに素敵な身体なのに」 (p.73)

(4) 主人公→赤の他人の女性（主人公は、旅中で会う女性）

”Är du i en besvärlig situation?” (p.259)

「何か面倒なことに巻き込まれているの？」 (p.312)

(5) 主人公→まりえ（主人公の生徒）

”Kan du sitta där ett tag? Du får sitta som du själv vill och röra dig också, bara du inte ändrar ställning alltför mycket. Du behöver inte sitta alldeles stilla.” (p.390)

「しばらくそこに坐っていてくれるかな。すきなかつこうでいいし、大きく姿勢を変えなければ、適当に動いてかまわない。とくにじっとしている必要はない」 (p.481)

(6) 彼女→主人公（恋愛関係）

”Tack. När du säger så, känns det som om jag har blivit återvunnen.” (p.64)

「ありがとう。そう言われると、なんだかリサイクルでもされているような気がしてくるけど」 (p.73)

(7) 免色→まりえ（赤の他人）

”Tycker du om tavlor, Marie?” (p.36)

「まりえさんは絵が好きなんですか？」 (p.44)

---

<sup>2</sup> 本論文の用例の書き方として、「話し手→聞き手（聞き手の話し手との関係）」のように統一している。



(8) 赤の他人の女性→主人公（主人公は、旅中で会う女性）

”Ser du något bakom mig? Är det någon där?” (p.259)

「私の後ろに何か見える？誰かいる？」 (p.312)

以上の会話の例から分かるように、*du* を親しい人に使う場合が多く、特に主人公の発話では (3) の彼女や、(2) の雨田政彦の主人公に対する用例も見られる。しかし、用例 (5) と (7) では、主人公と免色は *du* を知人の子供であるまりえに対しても使用している。現代スウェーデン語では、親しい人か知人にも関わらず、普段の人はほぼ誰に対してでも *du* を使用するのが最も一般的である。しかし、本論文で扱う『騎士団長殺し』では、知人に対して *du* の複数形の *ni* という二人称代名詞の使用が不自然なほどに多く見られる。Bergman (2013) は、1836 年の資料によると、*ni* は主に知りあいや、発話者より階級が低い者に対して使用され、親しい人に単数形二人称代名詞 *du* と単数形として用いられた複数二人称代名詞 *I* が使われていると述べている。また、Teleman (2013) によると現代のスウェーデン語では、二人称代名詞として単数形の *du* または、複数形の *ni* を用いるものの、1960 年代の終わりから始まった「あなた改革」(*du-reformen*) の改革によって、人は階層や関係を問わず、他人に二人称代名詞 *du* を主に使うようになったとしている。そして、1980 年代に *ni* は、知人に対する丁寧な呼称として復活し、主に若者は年上の人使用されはじめるようになったと Teleman (2013:155) は述べている。以下の (9-16) は、*ni* の用例である。

(9) 主人公→免色（知人）

”Jag har hört att ni också bor här i trakten, herr Menshiki.” (p.104)

「免色さんもこの近くにお住まいと聞きました」 (p.119)

(10) 主人公→騎士団長（知人）

”Så ni talar alltså inte om för mig sådant som det är bäst att jag förblir ovetande om?” (p.296)

「つまり、ぼくが知らないでいた方がいいことは教えてもらえないということですね」 (p.361)

(11) 主人公→秋川笙子（知人）

”Vad är det för en bok ni läser?” (p.23)

「何の本を読んでおられるのですか？」 (p.28)

(12) 免色→主人公（知人）

”Vill ni se mitt hus?” (p.104)

「うちをご覧になりますか？」 (p.119)

(13) 免色→秋川笙子 (知人)

”Ni får sitta i bilen så mycket ni vill. Ni får gärna köra den också om ni vill.” (p.39)

「いくらでも乗ってみてください。もしよかったら、運転なさってもかまいませんよ」  
(p.47)

(14) 秋川笙子→主人公 (知人)

”Men ni är en mycket skicklig lärare. Det har jag hört från många håll.” (p.386)

「でもご指導がとてもお上手だとうかがいました。たくさんの方々の口から」 (p.476)

(15) 秋川笙子→免色 (知人)

”Jag har hört att ni bor på berget på andra sidan dalen” (p.32)

「向かい側の山の上にお住まいとうかがっていますが」 (p.39)

(16) まりえ→主人公 (指導者)

”Bilderna ni ritade av mig innan var mycket fin.” (p.390)

「このあいだ、わたしを描いてくれた絵はとてもよかった」 (p.481)

(9-15) の各発話者の共通点は、話し相手はただの知人であることと、その知人に対する丁寧な日本語、いわゆる「です体」が用いられることである。この丁寧な日本語は、二人称代名詞の *ni* に翻訳されることが多いものの、このように多用されることは、現代のスウェーデン語では少し不自然な響きを与える。何故なら、現代スウェーデン語では知人や赤の他人と話してでも *ni* ではなく、非丁寧な二人称 *du* を主に使う。Teleman (2013) が述べる 1980 年代に復活し、主に若者に使用される *ni* と最も近い用例は (16) であり、少女のまりえは、年上の主人公に対して *ni* を用いるものの、まりえの原文の言葉遣いとは対立する。原文のまりえは、「だ体」を用いるので、丁寧な *ni* の使用は原文の言葉遣いを反映していないと考えられる。「だ体=*du*」と「です体=*ni*」の翻訳の仕方では、まりえの話し方は、主人公と会話した (8) の無名の女性と同じような非丁寧な言葉遣い (*du* 使用) に翻訳されるべきではなかったか。『騎士団長殺し』のほとんど全部のキャラクターは、「だ体=*du*」「です体=*ni*」のように翻訳されるが、まりえという少女のみ例外的な存在となっている。

続いて、*ni* のように、現代スウェーデン語であまり使われない敬称の制度が見られる。『騎士団長殺し』では敬称「さん」が多用され、翻訳版のスウェーデン語にも影響を与えている。前述のようにスウェーデン語では敬語を表すため、敬称 *fru/fröken/herr* があり、その用例は以下の (17-20) のようである。

(17) 主人公→免色 (知人)

”Herr Menshiki, jag har en fråga.” (p.105)

「免色さん、ひとつ質問があるのですが」 (p.121)

(18) 主人公→免色 (知人)

”Även om vi båda två målar tavlor, är det en enorm skillnad i nivå mellan herr Amada och mig. Jag känner mig alldeles för ringa för att nämnas jämte honom.” (p.133)

「同じ絵描きとはいっても、雨田具彦さんとぼくとではレベルが違いすぎます。同列に並べられると、恐縮するしかありませんが」 (p.158)

(19) 彼女→主人公 (恋愛関係)

”Bor herr Menshiki där?” (p.117)

「メンシキさんがそこに住んでいる」 (p.137)

現代のスウェーデン語では、以上の用例のように赤の他人や目上にでも *herr* (さん) などを付けず、前述の *ni* 使用も珍しい。例えば、用例 (17) で見られる *herr Menshiki* (「免色さん」の意味) の使用を本人と直接会話する際には、あまり起こらない。(18) の主人公と話し相手の免色の丁寧な場面でも、(19) の主人公と彼女の話しているより非丁寧な場面でも、話題の人物の名前に *herr* をつけているが、本人がいても敬語があまり使用されないスウェーデン語では、本人がいない時に敬称が使われることが考えにくく、スウェーデン語訳の発話者の言葉遣いは、原文の敬称付きの形式に影響されているのではないかと考えられる。

### 3.2 不自然な日常会話 (書き言葉要素)

『騎士団長殺し』の翻訳文では、必ずしも原文の日本語に影響されていないものの、スウェーデン語として不自然な言葉遣いが見られる。そのスウェーデン語として不自然な響きを与える用例は、以下の (20-22) である。

(20) 主人公→免色 (知人)

”Varför frågar ni mig om något sådant?” (p.174)

「しかし、どうしてそんなことをぼくにお訊きになるのですか？」 (p.207)

(21) 主人公→雨田政彦 (友人関係)

”Jag måste ju köra tillbaka till Odawara sedan” (p.85)

「これから運転して小田原まで帰らなくちゃならないからね」 (p.112)

(22) 彼女→主人公 (恋愛関係)

”Och så är det något du vill veta om den där herr Menshiki, eller hur?” (p.123)

「それでそのメンシキさんについて、あなたは何かを知りたいのね？」 (p.144)

以上の (20-22) の下線部に出て来る言葉は、日常会話として少し不自然である。Teleman (2013:87) が述べるように、日常的な感じを表わすため、語彙のさまざまな省略形があり、そのような日常会話で省略される語彙の用例として 1. någon→nån (誰か)、2.sådan→sån (その/あのような)、3.sedan→sen (後で) が取り上げられる。

(20) の用例は知人の会話なので、会話の堅苦しい雰囲気を与えるため、*något/sådan* は日常的な *nåt/sånt* に翻訳されていないのではないかと考えられるかもしれない。しかし、そうであるとしたら、なぜ用例 (21-22) のような日常的な場面では下線部の言葉は省略されていないのか。親しい人の間の会話では (21-22) sedan/något は、基本的に sen/ nåt に省かれているものの、言葉の基本形が使われるため、文章の書き言葉的な印象を与える。

### 3.3 騎士団長の話し方

最後に取り上げたいのは、『騎士団長殺し』の最も特徴的な話し方を持つ「騎士団長」というキャラクターである。原文の騎士団長は、古めかしい話し方を持っており、二人称代名詞の使い方も特徴的であり、「だ体」を用いる。騎士団長は、主人公以外のキャラクターと話さないで、話し相手はいつも同じである。騎士団長の特徴的な話し方は以下の (23) のようである。

(23)

”Vilket ni, mina herrar, också mycket väl vet. Men som jag är nu, har jag ingalunda något sår. (中略)” (p.287)

「諸君もよく知ってのとおりだ。しかし今のあたしには傷はあらない。ほら、あらないだろう？ (中略)」 (p.349)

原文の騎士団長は、一人称代名詞として「あたし」を用いる。依田 (2014) の「あたし」の項目によると、役割語としては、一般的な女性像を表す〈女ことば〉であり、特に活発、お転婆な女性を想起させると述べる。さらに、〈江戸ことば〉の一部として江戸の町人男性を表し、青年層からご隠居まで、主に大人が用いるとも述べる。騎士団長は、古めかしい話し方をしているため、後方の〈江戸ことば〉に相当すると考えられる。そして、二人称代名詞として「諸君」を用いる。金水 (2014) にると、「諸君」は複数の話し相手を指し示す二人称代名詞の用法を持ち、「読者諸君」「代議士の諸君」のように、属性を表わす名詞

の後ろに付加して二人称または三人称複数代名詞のように用いる用法もあると述べる。明治時代の学生言葉である〈書生語〉に起源を持つとも述べるので、この人称代名詞の使用も古めかしいと考えられる。騎士団長のもう一つの特徴的な日本語として、打消しの「あらない」の使用が見られる。『日本国語大辞典』によると、「あらない」には二つの種類がある。一つ目は、「ある」が動詞の場合、「ない」は打消しの助動詞として現れる「あらない」である。浄瑠璃の『心中宵庚申』（1722）に「せく事はあらない」のような使用が見られる。二つ目は、「ある」が補助動詞の場合として現れる。用例として、『おあむ物語』<sup>3</sup>

（1661・73 頃）「しら齒の首は、おはぐろ付て給はれと、たのまれて、おじゃったが、くびもこはいものでは、あらない」や、『南蛮寺門前』（1909）「このお寺は唯のお寺ではあらない」などがあり、古くから使われている打消しである。また、金水（2019）は「あらない」について、江戸前期から武家に使われた奴言葉/六法言葉の中で「あらない」は他の奴言葉と自然に溶け込んでおり、「あらない」を直接方言に求めるは困難であるが、神奈川方言において「仕方がない」という意味である「ショーガンネー」という表現に「あらない」の痕跡が認めうるとも述べる。

スウェーデン語では、一人称代名詞が一つしかないので、騎士団長の「あたし」は単なる *jag* に訳される。そして、単数形として使用される「諸君」は *ni, mina herrar* となっており、「(私の) 紳士たちのあなた」に相当する。以上で見てきたように、単数形の *ni* は丁寧な二人称として使われることが多く、「諸君」のように単数形として使うのは不思議ではないので、特徴を付けるため *mina herrar* が補助されている。打消しの「あらない」は *ingalunda* に訳されている。『スウェーデン語辞典』によると、*ingalunda* は、副詞の「決して...でない」「少しも...でない」という意味の言葉である。*Ingalunda* は、古めかしいか日常会話の言葉として使われるかは、記されていないものの、少し堅苦しい印象を与えるので、騎士団長の話し方に相応しい言葉遣いと考えられる。

スウェーデン語訳の騎士団長のもう一つ特徴的な言葉遣いとして、理由を表わす *ty* が挙げられる。*Ty* の用例は以下の (24) のようである。

(24)

”*Ty* inte ska väl mina herrar och jag utkämpa någon duell?” (p.287)

「あたしと諸君とでこれから果たし合いをするわけでもなかろうに」 (p.349)

『スウェーデン語辞典』では、*ty* は、接辞詞の「...だから」を表わす理由の言葉だと記されており、原文の「なかろう」に相当する。接辞詞の *ty* は、やや古い言い方を想起させる言葉であり、日常会話で使用されない言葉として見なされるので、騎士団長の話し方を

---

<sup>3</sup> しかし、金水（2019）で分かるように、『おあむ物語』で出て来る「あらない」は本来「お入りない」に起源を持つ「おりない」だったと考えられる。

さらに古めかしくする。原文の騎士団長は、特別な理由の表現を使わず、スウェーデン語では多くの人称代名詞も存在しないので、翻訳版の騎士団長を古めかしくするため、*ty* で補われていると考えられる。

前述のように、騎士団長は、「だ体」を用い、主人公や免色と比べて、あまり丁寧に話さない。また、『騎士団長殺し』では、殆どのキャラクターは、免色と会話する時、または免色について話す時に、彼の名前に敬称「さん」を付ける。しかし、以下の(25)の下線部で分かるように、騎士団長は、免色を「免色くん」と呼ぶ。そこで、「くん」は、敬称「さん」より非丁寧で、親しい意を持つものの、スウェーデン語版では、「くん」は丁寧な *herr* となっており、なぜこのように翻訳されているかは不明である。この *herr* の使用により、原文の騎士団長のより非丁寧な話し方と異なる印象を与える。

(25)

”Ni måste ringa till herr Menshiki, mina herrar, och höra om inbjudan till tisdag kväll fortfarande gäller. (p.297)

「諸君はこれから免色くんに電話をかけ、火曜日の夜の招待はまだ有効かどうかを確かめなくてはならない。」 (p.363)

最後に、騎士団長の「諸君」の使用に戻り、単数形として使われる「諸君」は *ni, mina herrar* に訳されると述べたものの、実は翻訳文の中で *ni, mina herrar* のさまざまなバリエーションがある。そこで、*ni, mina herrar* のバリエーションは、以下の(26)の用例で見られる。

(26)

”Det finns ytterligare en sak som jag i korrekthetens namn bör förtälja. Det gäller mina herrars förtjusande flickvän... hm, den gifta damen, som kommer i den röda Minin. Jag beklagar, men jag åser faktiskt allt vad ni företar er här. Det som så livligt utspelar sig i sängen när ni klätt av er.” (p.296)

「ああ、それからひとつ礼儀上の問題として、念のために今ここで申し上げておかなければならないのだが、諸君の素敵なガールフレンドのことだが……、うむ、つまり赤いミニに乗ってくる、あの妻のことだよ。諸君たちがここでおこなっておくことは、悪いと思うが、残らず見物させてもらっている。衣服を脱いでベッドの上で盛んに繰り広げておくことだよ」 (p.361)

まず、用例(26)で分かるように、「諸君」は必ずしも *ni, mina herrar* に翻訳されず、二人称の *ni* は省かれ、*mina herrar* ((私の) 紳士たち) に翻訳されることがある。逆に、以上の下線部の通り、「諸君たち」が使われ、*ni* しか残されない例もある。また、日本語は人稱の一致がないので、名詞句の主語や目的語の省略が可能なので、省略されていてもさほ



ど違和感がない普通の文章となる。しかしスウェーデン語では、人称の一致があるため、日本語のように人称代名詞が省略できない場合がある。そこで、スウェーデン語版の騎士団長の台詞では、原文で使われていない二人称のところでは、その空間は二人称*ni*で埋められている<sup>4</sup>。

#### 4 まとめ

スウェーデン語へ訳された『騎士団長殺し』の翻訳の仕方について以下のことが分かった。

- 原文の会話の参加者は、「だ体」「です体」の間柄により、スウェーデン語版で二人称代名詞の *du* か *ni* が使われることも変わる。例えば、主人公は、友人の政彦に対して「だ体」を用い、*du* に翻訳されるのに対し、知人の免色に「です体」を使用し、その丁寧さは、*ni* に訳される。
- 現代のスウェーデン語では、赤の他人や目上に対してでも *herr* のような敬称はあまり使用されないものの、『騎士団長殺し』では多くのキャラクターに使用される。
- 『騎士団長殺し』の翻訳文では、スウェーデン語として不自然な言葉遣いが見られる。例えば、親しい人の間の会話では(21-22)で使われるような *sedan/något* は、基本的に *sen/ nåt* に省かれるものの、省略されていないため、会話はやや堅苦しくなる。
- スウェーデン語では、一人称代名詞が一つしかないので、騎士団長の「あたし」は単なる *jag* に訳され、打消しの「あらない」は少し堅苦しい *ingalunda* に訳されていることが分かった。そして、単数形として使用される「諸君」は、かなり自由に翻訳されるものの、*ni, mina herrar* (「(私の) 紳士たちのあなた」に相当する) に訳されることが最も多かった。また、*ni* や *mina herrar* のみ使われる用例も見られる。そして、騎士団長の話し方をより古めかしくするために、理由を表わす接辞詞の *ty* も多用された。

今後の課題として Vibeke Emond に翻訳された村上春樹の『1Q84』で登場するキャラクターの発話分析を行いたいと考える。例えば、本小説の「ふかえり」という女性キャラクターの話し方は、特徴的であり、どのように翻訳されているかを調査したい。

---

<sup>4</sup>以下の用例で分かるように、原文では二人称代名詞が使われておらず、スウェーデン語版で、その空間は *ni* で埋められている。

”I morgon kväll kommer ni att få ett telefonsamtal.” (p.367)

「あくまでささやかなことだが、明日の夜に電話がかかってくるであろう。」 (p.452)

## 参考資料

村上春樹 (2017) 『騎士団長殺し 第1部 顕れるアイデア編』新潮社

村上春樹 (2019) 『騎士団長殺し 第2部 遷ろうメタファー編』(上) 新潮文庫

Murakami, Haruki(förf.) (2017), Emond, Vibeke(övers.)(2018), *Mordet på Kommendören: En Idé Uppenbarar Sig*, Stockholm

Murakami, Haruki(förf.) (2019), Emond, Vibeke(övers.)(2019), *Mordet på Kommendören: En Föränderlig Metafor*, Stockholm

## 参考文献

尾崎義、田中三千夫、下村誠二、武田龍夫 (1990) 『スウェーデン語辞典 SVENSK-JAPANSK ORDBOK』大学書林

金水敏 (2014) 「諸君」『〈役割語〉小辞典』金水敏 (編)、研究者

金水敏 (2019) 「村上春樹作品と日本語史の「共鳴」—『騎士団長殺し』騎士団長の「あらない」再考—」『村上春樹における共鳴』中村三春 (監)、曾秋桂 (編)、淡江大學出版中心

リンドソコグ、セバスティアン (2018) 『『海辺のカフカ』のキャラクターのスウェーデン語への翻訳について—村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書』『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (1)』大阪大学大学院文学研究科

依田恵美 (2014) 「あたし」『〈役割語〉小辞典』金水敏 (編)、研究者

Bergman, Gösta 2013, *Kortfattad Svensk Språkhistoria*, Studentlitteratur AB

Teleman, Ulf 2013, *Tradis och funkis: Svensk språkvård och språkpolitik efter 1800*, 3 uppl. Lund: Studentlitteratur AB

『日本国語大辞典』*JapanKnowledge Lib*,

<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=20020027a443OVDBoBO99> (2020-01-28 確認)





# 日本のロールプレイングゲーム（JRPG）の英語翻訳における 役割語・キャラクター言語の表現手法

—「古い英語表現」に着目して—

野村 涼  
(スタンフォード大学)

## 1 はじめに

金水(2003)における役割語の研究からこれまでに様々な視点から役割語の研究がなされてきた。役割語の多くがフィクションなどで読み手や視聴者の理解を助ける働きを持っているということ、また多くの国や地域において現地の言葉でフィクションが作られているということを考えれば、役割語に近い言語現象は様々な言語で見られるだろうということは想像に難くない。これまでも金水（編）（2007、2011）などで日本語以外の言語における役割語の研究が紹介されている。本稿では英語における役割語・キャラクター言語研究の一端として、日本のロールプレイングゲーム（JRPG）の翻訳に見られる「古い英語表現」の使用に着目し、どのような表現が実際に使われているのかを概観する。さらにそれがどのような意図で使われているのか、そしてどのような役割を果たしているのか考察する。ここでいう「古い英語」とは *thou*（現代英語の *you* の古い形）のような単語レベルのものから、初期近代英語などに見られる活用（*have*→*hast/hath*, *do*→*dost/doth* など）などの使用を指す（詳しくは後述する）。結論としては、英語にはこれまでに深く議論されていなかった役割語を表す手法がまだあり、「古い英表現」はその一つに当たるとされる。また「古い英表現」は役割語のように話し手の時代を表すのに使われている一方で、話し手の性格的なもの（フォーマルさや丁寧さ）を表すキャラクター言語としての側面も強いと思われる。

## 2 先行研究

### 2.1 役割語とキャラクター言語について

役割語とは金水(2003)で定義された言語変種における現象の一つである。(Kinsui & Yamakido (2015)にて再議論されている。)

ある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿、風貌、性格等）を思い浮かべることができる、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができる、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。(金水 2003 : 205)

よく引用される代表的な役割語が「老人ことば」で「そうじゃ、わしが知っておる」という発話を聞いた、もしくは見た日本語ネイティブ話者ならば、おそらくほとんどの人が話し手の特徴として「高年齢」「おじいさん」といった特徴を挙げることが予想される。

一方で、役割語と似た種類の概念としてキャラクター言語というものも存在する。キャラクター言語の特徴として Kinsui & Yamakido(2015, p.32)は以下の点を挙げている。

1. A speech style that, while associated with a particular social or cultural group, is not widely enough recognized within the speech community at large to qualify as true role language.
2. A speech style in which a type of role language is unexpectedly adopted by a character who does not belong to the social or cultural group with which it is typically associated.
3. A speech style in which a type of role language is employed to express its speaker's personality, rather than the stereotype of the social or cultural group with which it is associated.
4. A peculiar speech style that does not correspond to any social or cultural group, but is assigned to a certain character for his/her role in the story.

役割語はその言語の話者に、「広く一般に知られている」社会的・文化的グループを連想させるという点が重要であり、キャラクター言語は必ずしもそれに当たらない特異な話し方を指すと思われる。例えば、「ツンデレキャラ」などは認知度としては「老人語」などと比べて低いことが予想されるため、役割語とは言い難い。また方言のように広く一般に知られている言語変種であっても、話し手の出自から自然に話されるものではなく、話し手の特定の性格を一時的に表す・強調するために使われるような場合、はその方言は役割語ではなくキャラクター言語という扱いになる。

これまでなされてきた役割語・キャラクター言語の研究はフィクション内での発話を基にしているものが多いが、役割語の定義は必ずしもある言語変種が実際の会話で使われているかどうかを区別しない。そのため、「俺」のような男性が実際の会話で頻繁に使うような言葉も役割語として扱われうる。しかし、本稿における「役割語」と「キャラクター言語」も基本的には実際の会話ではあまり聞くことのない、フィクショナルな話し方を指すものとする。

## 2.2 英語における役割語

英語における言語変種の研究は非常に盛んになされているが、その多くは実際に会話で使われている言語変種であり、その多くが音の違いによって生み出されるものである（英

語における言語変種の研究の代表的なものについては Labov (1966) など、言語変種研究のこれまでの変遷については Eckert (2012)、などを参照)。音と文字が基本的に一対一で対応しているひらがなやカタカナと違って、英語で母音や子音の微妙な違いをアルファベットで示そうとすると、それは違う単語、または存在しない単語の綴りになってしまうため、小説やコミックス等の文字を使う媒体では本稿の指す役割語やキャラクター言語に限らず社会言語的な変種全般を表すのが非常に難しいことが予想できる。

しかし、それでも英語の文字媒体において発音の違いや、それに連想される役割語・キャラクター言語を表す方法がないわけではない。例えば、山口(2007)は「視覚方言 (eye dialect)」と呼ばれる発音の違いを表すようなスペリングを紹介している (例: Last time→Las' time、Somewhat→Summatなど)。さらに日本語のようにシンタックス自体にも違いがあると、言語変種を文字で表すのは比較的容易である。先述の山口(2007)は中国系アメリカ人ステレオタイプを反映したピジン英語なども紹介している。ほかにも山木戸(2013)では中国系ピジン英語に加え、日系英語、ロシア系英語にも特徴的な話し方が見られ、そこに共通点があることを指摘している。山木戸(2015)ではアフリカ系アメリカ英語を分析しているが、アフリカ系アメリカ人の使う英語は実際の会話でも使われるよく使われるため、現地での研究も盛んである。さらに山木戸(2018)は映画におけるネイティブアメリカンの役割語について考察しており、日本語よりは少ないかもしれないが、役割語・キャラクター言語と呼べるような話し方が存在している。<sup>1</sup>

### 3 研究目的

山口(2007)は英語における役割語の少なさの理由について、代名詞や終助詞の選択肢が少ないことを指摘している。しかし、終助詞とは異なるものの、英語の Tag-question にもある種の社会言語学的意味があることが研究されているし (Moore & Podesva, 2009)、代名詞にも日本語ほどではないがいくつか変種があり (Y'all など)、金田(2011)は Final Fantasy VI というゲームの北米版の翻訳で thou が使われていることを指摘している (p. 138)。このような古い英語の変種は当然古さ・異なる時代を連想させることは想像に難くないが、それ以外にも多くの社会的な話し手の特徴を連想させることが予想される。古さを表すことのできる表現は代名詞だけに限るわけではないため、本稿ではどのような手法が役割語・キャラクター言語として JRPG の翻訳に使われているのかを概観する。また具体的にそのような古い英語が使われている例を見て、それが役割語として働いているのか、それともキャラクター言語としての側面が強いのかという点も考察する。

---

<sup>1</sup> アフリカ系アメリカ英語に加え、Southern dialect などアメリカにおける有名な言語変種の一つで役割語と呼べるだろう。そのほか、各国で話されている英語 (アメリカ英語、イギリス英語、インド英語など) も定義的には役割語となりうるはずである。

## 4 分析対象の紹介

このセクションでは実際の分析に用いるゲームとその中で古い英語を使用するキャラクターを紹介する。

### 4.1 クロノトリガー

クロノトリガーは日本のゲーム会社スクウェア（現在はスクウェアエニックス）から1995年に発売された任天堂スーパーファミコン向けゲームである。簡単にゲームのストーリーを説明するが、未プレイでかつ今後プレイするつもりの方はここから先は次のセクションまで飛ばしていただきたい。

非常に簡潔に概要を説明すると宇宙からきた謎の生物が地球に寄生し、地球の命を吸い取っており、その生物を主人公たちが退治するというものである。このゲームの最大の特徴が、主人公たちが時代を超えて、過去と現代と未来を行き来し、その謎の生物が何なのかということに気づき、自分たちの過去と現在と未来を守るというストーリーにある。またメインのプレイ可能なキャラクターのうちいくつかは未来・または過去から来た者たちである。クロノトリガーはいくつか違う機種・プラットフォーム用にリリースされており、翻訳に関してはかなり違ったものになっている<sup>2</sup>。本稿では任天堂スーパーファミコン向け北米版クロノトリガーを分析に使用する。

#### 4.1.1 カエル

今回、具体的に分析していく発話の主が「カエル」である。カエルはクロノトリガーのプレイ可能なキャラクターの一人で、名前の通り見た目は二足歩行のカエルである（下の図1参照）<sup>3</sup>。魔法によってカエルの見た目に変えられてしまったが、それ以外は人間と同じで言葉を喋るし記憶なども人間の頃と変わらない。



図 1. クロノトリガー（カエルは左端）スクウェアエニックス公式ホームページより。

<https://www.jp.square-enix.com/chronotrigger/>

<sup>2</sup> 例えば任天堂 DS 用クロノトリガーでは古い英語が使われていない。これは古い英語が子供には難しいすぎるなどの理由が考えられる。

<sup>3</sup> 「カエル」はゲーム内でのデフォルトの名前であり、実際のゲーム内ではプレイヤーが自由に名前を変えることができる。



彼はもともと自身が住んでいるガルディア王国の国王や王妃とも面識のある騎士で、王国に仕える一番の剣豪の親友であった。ある戦いでその親友を失ってしまったこと、またカエルの姿に変えられてしまったことから人目を避けた生活に入る。しかし、ある事件で連れ去られてしまった王妃を助けるために主人公達と行動を共にするようになる。

カエルについては押さえておかなければならない点が三つある。(1)彼は 600A.D. (日本版ゲーム内では「中世」)の人物であるという点、(2)英語翻訳版では「古い英語」使う点、(3)日本語版では基本的に、典型的な「男性言葉」を使うという点である。(2)については、ファンの中ではどうやら有名なようであり、インターネットのゲームサイトでもこのことについて言及しているものがある<sup>4</sup>。彼は中世の人物であるため、古い英語表現によって彼の話し方の古さを表しているという風に考えるのは不自然なことではなく、もちろんその狙いもあると考えられる。ただ、その一方で同じ中世でも、ほかのキャラクターは全く古い英語を使わない。これは古い英表現が「古さ」だけを表すのではなく、カエルのそのほかの性質を表すために使われていると考えられる<sup>5</sup>。詳しくは後のセクションで見ていく。

## 5 データ・具体的翻訳手法

このセクションでは上で紹介したゲームキャラクター「カエル」の実際の発話の翻訳と日本語のオリジナルを紹介していく<sup>6</sup>。カエルの発話の翻訳を似たような特徴から以下の5個に分けた：(1) 代名詞 (2) 動詞の活用 (3) 語彙・フレーズ (4) 文法・シンタックス (5) その他。それぞれのカテゴリーに当てはまる実際の発話の例をこれから紹介する。

---

<sup>4</sup> 例えば “Thou hast played a game! A history of Olde English in localizations” というネット記事の中でカエルの古い英語表現が触れられている。

<sup>5</sup> カエルだけが中世で古い英語を使うのにはほかの理由もあると考えられる。金水(2003)で述べられているように、役割語は主人公ではないがある程度重要な役割を果たすキャラクターに与えられる傾向がある。そのため町の人などはこの重要度が低く、そのため「独特な話し方をさせるに値しない」ほどのモブキャラであると考えられることができる。金水・田中・岡室(2014)、Kinsui & Yamakido(2015)が言うように、受け手（ここではゲームのプレイヤー）へのわかりやすさを優先した結果と考えることもできる。

<sup>6</sup> カエルの英語版の発話は GameFAQs というサイトからとったものである。  
(<https://gamefaqs.gamespot.com/snes/563538-chrono-trigger/faqs/31563>)

## 5.1 代名詞

表 1. 代名詞

	英語の翻訳	日本語オリジナル
1	Lower your guard and <b>thou</b> 'rt allowing the enemy in.	最後まで気を抜くな。勝利によいしれた時こそスキが生じる。
2	I thank <b>thee</b> Crono, and Lucca.	助かったぜ、クロノ、ルッカ。
3	My guise doth not incur <b>thy</b> trust...	まあ、こんなナリしては信用しろと言っても無理か…
4	I know not <b>thine</b> quest,	事情はよくわからんが
5	<b>Mine</b> name is Glenn!	我が名はグレン！ <sup>7</sup>

二人称単数代名詞 (you) の古い形態である **thou** とその変化形はカエルの発話に見られる顕著で頻度の多い特徴である。確かに英語は代名詞の種類が日本語と比べるとはるかに少ないが、古い二人称単数代名詞がここでは一つの役割語的な使用をされている。3と4の例文には **thou** の所有格である **thy** と **thine** がどちらも使われている。Oxford Dictionary of English(ODE)(1989)によると、**thy** は続く単語の最初の文字が子音、**thine** は続く単語の最初の文字が母音もしくはhの時に使用されるとあるが、例を見る限りその音韻論的規則は無視されている。5番の“**mine**”はカエルの発話中、唯一の一人称代名詞の古い使い方現代の“**my**”と同義である。Smith(2005)によると、初期近代英語では **my** と **mine** がどちらも一人称所有格の代名詞として使われていたようだが、**thy/thine** 同様、**my** は子音の前、**mine** は母音またはhの前に使われる。そのため5の例も文法的には「正しくない」ことになる。このような当時の「正しい文法」に則っていない用法がこれから見るほかの古い英表現にも見られるが、それは、古い英語表現が文法的な正しさよりもこれらの表現の持つ社会的、文化的、性格的側面に重きを置いているからだと考えることができる。

## 5.2 動詞の活用

表 2. 動詞の活用

	英語の翻訳	日本語オリジナル
6	Thou <b>art</b> here to practice thy skill in swordplay?	どうした、剣をならいに来たか？
7	I <b>hath</b> disgraced thee.	めんぼくしだいもございません。
8	Yet there's nary a thing I <b>canst</b> do against Magus.	しかし、もう魔王には手も足も出ない…
9	Thou <b>knowest</b> his power?	ヤツは強いぞ…かくごはいいか？
10	<b>Hand</b> 'eth over the Masamune.	グラントリオンよこせ。

<sup>7</sup> 「カエル」というのは通り名で、人間だった頃の本当の名前を「グレン」という。

次に、カエルの発話の特徴の一つとして初期近代英語のような動詞の活用が見られる。6の **art** は現代英語の **be** 動詞の“**are**”に当たる語で、いくつかのお祈りなどに使われる決まったフレーズ等で今でも「**thou art** ~」の形で見かけることがある。7の **hath**、8の **canst** はそれぞれ現代英語の **have**、**can** に当たるもので現代の英語における助動詞も動詞と同様の古い活用形が使われている。これらの **be** 動詞、助動詞は使用頻度も多く、文脈からも何がもともとの形なのか推測可能である。一方、特筆すべきは9と10のような普通動詞である。**know** と **hand** に “-(e)th”をつけることで初期近代英語のような活用を普通動詞にも可能にしている。

代名詞の時と同様、文法に関しては全く統一性がない。7と10に見られる接尾辞 “-(e)th” は主語が三人称単数の時に動詞につくものであり文法的には正しくないといえる。また8、9に見られる接尾辞 “-(e)st” は二人称単数、つまり **thou** に続く動詞に使われるものであり、8の使用は間違っていることになる<sup>8</sup>。先述したように、これらの古い英表現に求められているのは、歴史的な文法に則って使われているかどうかではなく、プレイヤーにカエルの話しぶりが少なくとも「標準ではない」と思わせることにある、と考えられる。

### 5.3 語彙・フレーズ

表 3. 語彙・フレーズ

	英語の翻訳	日本語オリジナル
11	<b>Mayhap</b> a hidden door lurks <b>nigh</b> ?	ああ、きっとこの部屋のどこかに、かくし通路があるはずだ。
12	<b>'Twas</b> a fault of mine, which endangered the Queen.	俺が近くにいたため、王妃様を危険にさらしたのだ…
13	Uh... <b>aye</b> !	あ…、は、はい！
14	By the way, <b>whither</b> the blue-haired one?	それより、あお白いツラしたマントのヤローはいなかったか!?
15	I <b>shan't</b> allow him to go away.	この手でカタをつけない事には。
16	<b>Confound</b> it!	ちっきしょ

日本語でも役割語を表す方法として、もしくは世代の違いを表す指標として代名詞を含む語彙の違いは大きな役割を果たす。カエルの発話の英語の翻訳でも「古い」と見なされる単語がかなり見られる。ここでは ODE で“**Archaic**”と分類されているものを選んで紹介している。12の **'twas** (とその類型、**'tis** など)と15の **shan't** は現在でも特殊な場面で見られる可能性があるが、どちらも古い、もしくは文語的な言い方で、現代の日常会話で聞くことはほとんどないと思われる。どちらも単語のみではなく縮約が絡んでいる (**'twas** = **it**

<sup>8</sup> このような古い英語の文法規則の無視は金田(2011)でも指摘されている (p.139)。



was/shan't = shall not) ため語彙のみならずシンタックスにも少し関わってくる。11 と 14 に関して、nigh(near の古い言い方)や whither (where の古い言い方)が使われているが、そのほか、hither(here の古い言い方)もほかの発言で使われている。感動詞・間投詞も日本語において役割語を表す重要な手法であるが(金水 2003、p.207)、13 の例のようにカエルの英語翻訳でも同様の「古い」と考えられる間投詞が見られた(「aye」は古いもしくは方言の「yes」の意)。また単語レベルではなく、フレーズレベルでも 16 のような「古い」と考えられている表現が見られる。

#### 5.4 文法・シンタックス

表 4. 文法・シンタックス

	英語の翻訳	日本語オリジナル
17	M, mayhap Lavos <b>be</b> the cause of this warp?	お、おい、こりゃアイツのせいで出来たんじゃねえか? <sup>9</sup>
18	Crono, <b>let us</b> be on our way!	クロノ、行くぞ!
19	He <b>be</b> in the fine health!	元気で…元気でやっております。
20	<b>Despair not</b> ...Fate <b>be not</b> malleable.	気を落とすな…人の命のさだめまで俺達に変えることは出来ないということか
21	<b>Heavy</b> , it <b>be</b> !	重い!

この表ではカエルの話し方に見られる特異な文の構造的変種の例が挙げられている。17、19、20、21 には動詞のbeが原形のまま使用されている。17 のように、疑問形にbeの原形が使われる例がいくつか見られると同時に 19、20、21 のように疑問形ではないものの、時制や主語による形の変化を受けていないものも見られる。中期英語・初期近代英語ではbeの原形が直接法や仮定法に使われることがあるため(Smith 2005)、そのような使い方の模倣として使われている可能性はある<sup>10</sup>。ただし、これらのbeは常にカエルのセリフにおいて使われているわけではない。18 については、現代英語、特に口語においてlet'sとなる部分でlet usとなっているのもカエルのセリフの特徴である。Let'sに限ったことではないが、一般にに省略や縮約が起こった場合と起こらない場合では起こらない場合の方が「正しく、それゆえ、フォーマルに聞こえると考えられる。そのためlet usという形を使っているのも意図的な判断だと思われる。しかし、be同様、カエルのセリフにおけるlet usとlet'sの使用は一貫しているわけではない。さらに 20 のような否定の方法(動詞の後にnotを置く形)は初期近代英語に見られるもので(Smith 2005)、今でもいくつかのフレーズに見られる(Fear not!) など。21 ではbeの原形での使用と同時に形容詞の前置がなされている。

<sup>9</sup> ここでいう「アイツ」とはラヴォス(Lavos)という先述の地球に寄生する宇宙から来た謎の生物のこと。

<sup>10</sup> 現代の英語でも、フォーマルな状況での仮定法においては be が使われることがある。

## 5.5 その他

表 5. その他

	英語の翻訳	日本語オリジナル
22	<b>Forthwith</b> I shall slay Magus and restore honor!	今ここに受けつぎ、魔王をうつつ！
23	<b>Vanquishing</b> thee will neither return Crono nor Cyrus.	今キサマを倒したところでクロノは戻って来ん…。サイラスもな…。
24	Through no fault of Magus does Lavos live! (Lavos hath fallen from the sky in ancient times.)	魔王のヤツが生んだんじゃなく（空から降ってきたのか。こんな昔に。）
25	...Long farewells <b>ne'er</b> were necessary.	…別れに多くの言葉はいらないさ。
26	P, perish the thought, <b>lass</b> !	バ、バカヤロー！
27	Thou art a lucky <b>lad</b> .	お前はしあわせ者だぜ…

上の表には「古い英表現」には当たらないものの、特徴的な発話を挙げてある。22、23 には古い単語のほかにODEでフォーマルと分類されている単語と一緒に使われているのがわかる。そのため、どれも口語ではあまり見ない単語だと考えることができる。24 にはNegative inversionという倒置構文が見られる。このような倒置構文もその多くが文語に見られる特徴であるといえるだろう。その一方で25のne'erはneverの縮約形で、ODEによると文語、もしくは方言に当たるとのことである。26のlassは方言である。フォーマルさと方言は一見、対極にあるように思えるが、実は深いつながりがあると考えられる。文学的表現や詩語は伝統的儀式や歴史的文書などに使われることが多いため、古さを連想させる。また方言も種類や状況によっては古さや古い世代を感じさせるため、「古さ」という観点から見ると両者は関連性がある。日本語の役割語としてよく引用される「老人語」も西日本の方言と似た表現が多く（「おる」「じゃ」など）、実際に西日本の方言にルーツがあるとされる（金水 2003）。多くの場合、古さと地方の方言の間には連想が働くと考えて差し支えないように思われる<sup>11</sup>。

27の「lad」という単語はインフォーマルな単語であり、上のフォーマルな単語とは対極にある言葉である。数は少ないものの、「lad」以外にもODEでインフォーマルと分類されている単語が多少使用されている。しかし、Google Books Ngram Viewerという活字における単語の使用頻度を調べることでできるサイトでのサーチによると、「lad」の使用は1600年代前半と1900年ごろをピークに使用頻度が下がっており、世代としては古い世代

<sup>11</sup> 当然、方言の種類にもよる。大阪・近畿方言などは必ずしも「古さ」を連想させないように思われる。金水(2003: 81-85)を参照。

が使う言葉であることが予想される。そのため、スラングなどのインフォーマルな表現は常に新しいものが現れるものの、カエルの使うインフォーマルな表現は「古いインフォーマルな表現」である可能性が高い。

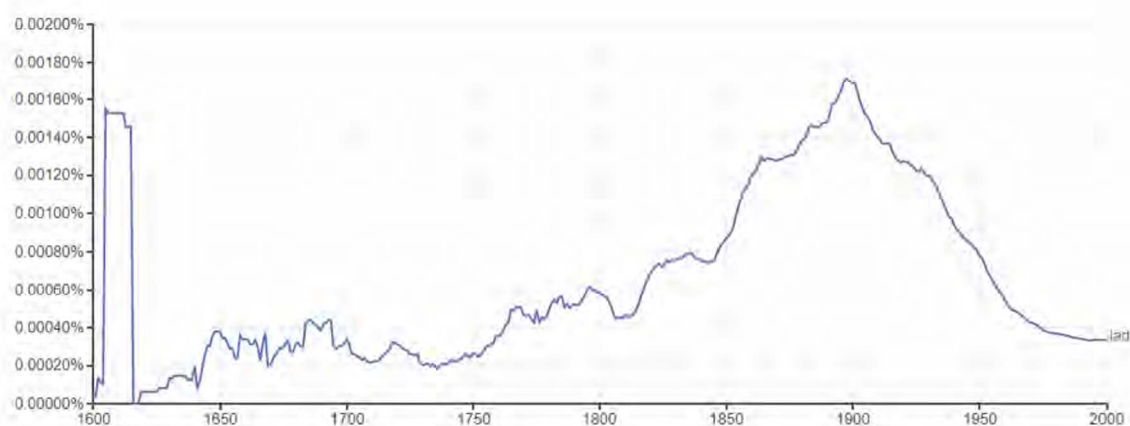


図2. 「lad」の使用頻度の推移 (Google Ngram サーチによる)

## 6 考察

セクション5ではどのような方法がカエルの翻訳に使われているのかを概観した。山口(2007)は、英語では日本語のように様々な人称詞を使ったり「じゃ」「ござる」「ですの」などの文末表現を使う「足し算式」のマーキングが不可能と述べているが (p.16)。しかし、5.1、5.2、5.3 からわかるように「足し算式」、つまり異なる代名詞や語形変化や語彙における役割語の表現が英語でも、(もちろん数は日本語よりは少ないと思われるが) 可能であることがわかる。

さらに以下ではその方法がどのような意図で使われているのかを考察する。カエルは古い時代の人間であるため、当然、古い英表現が「昔・歴史上の人」を表す役割語として働いていると考えることができる。またODEの“thou”の項目によるとクエーカー教徒は、少なくなってきたものの、まだthouを使うとしており、そのほかキリスト教に関わるコンテキストでは神様やキリストを指す、または呼びかける際youではなくthouが用いられることがあることが述べられている。つまり宗教的な連想があると思われる。そのほか、演説、詩、高尚な文章などにも使われるということであった。この感覚はおそらく多くの英語話者が持っており、筆者が行った簡単なインフォーマルなアンケートによると<sup>12</sup>、歴史的なフィクションの他、聖書 (特にKing James Bible) をカエルの発話から連想するという回答がいくつか見られた。そのため、もちろん上に挙げた個々の表現手法によって連想されるものに違いがあると考えられるものの、一般的に古い英表現 (特にthouや古い活

<sup>12</sup> 古い英表現が含まれるカエルの発話を、発話者やコンテキストなしの状態で見せ、何を連想するか答えてもらうというもの。被験者の数は9人でアメリカ英語母語話者である。



用)は「古さ」のほかに「キリスト教に関わる文化・社会的特徴」を表す役割語といえるだろう。

しかし、一方でカエルは宗教には全く関係がない。また上で述べたように、カエル以外の同時代の人物はカエルのような古い英表現を全く使わない。そのため、古い英表現は古い時代を表す役割語としての用法に加え、カエルの性格的特徴を表す「キャラクター言語」としても強く働いているのではないかと考える。ODEの説明にもあったように、古い英表現は詩や非常にあらたまった場面や儀式的な場面、文語などで使われる表現であり、それゆえ、話し手の「フォーマルさ」「丁寧さ」「真面目さ」(場合によっては「頑固さ」「融通の利かなさ」)などの性格的要素を強く連想させると考えられる。これはカエルの発話に5.5で紹介したようなフォーマルは単語や表現が多く使われていることから容易に想像できる。

カエルの日本語版の発話の多くはかなりカジュアルな「男性語」であるため、英語翻訳のカエルと日本語版のカエルではかなりプレイヤーに与える印象が違いうだろう。しかし、日本語版でも例文7のように、カエルは王様や王妃に話す場合は丁寧な言葉遣いになる。基本的には英語翻訳ではその丁寧に話すカエルの話し方で統一されていると思っていいだろう<sup>13</sup>。

## 7 終わりに

本稿では日本のPRGに登場するキャラクターの発話の英語翻訳を通して、これまでに詳しく研究されていなかった英語における役割語・キャラクター言語の表現方法を概観した。日本語と比べて文字媒体において役割語を表す手法に乏しいと考えられていた英語にも様々な方法で話し手の社会的・文化的特徴や性格的特徴を表す手法があることを明らかにした。またその使用の潜在的な理由や動機についても簡単に考察した。今後の課題としては、本稿で紹介されたような英語表現がほかの翻訳や作品でも見られるのか、またそうである場合、どのようなキャラクターや場面で使われているのかを見ることで、本稿で紹介されたような表現が一般にどのように認識されているのか、どのような社会的・文化的・性格的特徴を表すのか、それともカエルの翻訳が特異なケースなのか等を詳細に分析していく必要がある。実際にこのほかの翻訳やフィクションで古い英語が使われているものは存在するので、今後はもっと社会的・文化的・性質的な意味に踏み込んだ研究を行っていききたいと思う。同時にさらなる英語における役割語の表現方法も研究していきたいと考えている。

---

<sup>13</sup> 一方で数少ないインフォーマルな表現は日本語版の「男性語」に合わせたものと思われる。

## 調査資料

青木和彦（プロデューサー）、時田貴司（ディレクター）、北瀬住範（ディレクター）、松井聡彦（ディレクター）（1995）. 『クロノトリガー』 東京：スクウェア

## 参考文献

- Rosen, D. (2014). Thou hast played a game! A history of Olde English in localizations. Retrieved from <http://builttoplay.ca/features/2014/5/20/ye-olde-videoed-game-translations-a-history-of-olde-english-in-localizations>
- Eckert, P. (2012). Three waves of variation study: The emergence of meaning in the study of sociolinguistic variation. *Annual Review of Anthropology* 41, 87–100.
- 金田純平（2011）「要素に注目した役割語対照研究—「キャラ語尾」は通言語的になりうるか—」金水敏(編)『役割語研究の展開』pp.127-152, 東京：くろしお出版.
- 金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語役割語の謎』 東京：岩波書店.
- 金水敏（編）（2007）『役割語研究の地平』 東京：くろしお出版.
- 金水敏（編）（2011）『役割語研究の展開』 東京：くろしお出版
- 金水敏（編）（2014）『＜役割語＞小辞典』 東京：研究社.
- 金水敏・田中ゆかり・岡室美奈子(編)（2014）『ドラマと方言の新しい関係:『カーネーション』から『八重の桜』、そして『あまちゃん』へ』 東京：笠間書院.
- Kinsui, S. and H. Yamakido (2015) “Role Language and Character Language.” *Acta Linguistica Asiatica*, 5(2), 29-41.
- Labov, W. (1966). *The social stratification of English in New York City*. Washington, DC: Center for Applied Linguistics.
- Moore, E. & Podesva, R. J. (2009). Style, indexicality, and the social meaning of tag questions. *Language in Society* 38(4), 447-85.
- Simpson, J. A., & Weiner, E. S. C. (1989). *Oxford dictionary of English* (2nd ed.). Oxford/New York: NY. Oxford University Press.
- Smith, J.J. (2005). *Essentials of Early English: An introduction to Old, Middle and Early Modern English* (2nd ed.). London/New York: NY. Routledge.
- 山木戸浩子（2013）「英語に役割語は存在するのか？」『日本言語学会第147回大会予稿集』pp.554-559.
- 山木戸浩子（2016）「役割語としてのアフリカ系アメリカ人英語の文法について」金水敏(編)『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ2015 報告論集』pp. 91-111.
- 山木戸浩子（2018）「ハリウッド映画におけるネイティブ・アメリカン(「インディアン」)の役割語について」『藤女子大学文学部紀要 第55号』pp. 85-123.
- 山口治彦（2007）「役割語の個別性と普遍性□日英の対照を通して□」金水敏(編)『役割語研究の地平』pp.9-25, 東京：くろしお出版.

# 『1Q84』における役割語とキャラクターの機能に関する一考察

## —コレスポネンス分析を用いて—

麻 子軒

(大阪大学大学院文学研究科)

### 1 はじめに

本稿の目的は、村上春樹の長編小説『1Q84』に見られる役割語がそのキャラクターの機能と如何に関わるかを明らかにすることである。金水（2017）では、「フィクションの登場人物の話し方は、フィクションの構造におけるそのキャラクターの機能（物語にどのように関わるか、物語の進展にどのように貢献するか）と深く関係する」と述べられた。本稿ではまず『1Q84』のキャラクターをアーキタイプの面から分類し、次にコレスポネンス分析という統計手法を用いて、キャラクターを役割語の観点で検討した後、両者の結果を総合的に考察することによって、役割語とキャラクターの機能との関係を解明する。

### 2 先行研究

「役割語」は金水（2003）で提出された概念で、その定義は次のようになる。

ある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿、風貌、性格等）を思い浮かべることができる、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができる、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。  
(金水 2003 : 205)

例えば、一人称代名詞「わし」や文末表現「じゃ」などが老人という人物を想起させるため、＜老人ことば＞に該当する。金水（2003）は日本語の役割語を判断する指標として、（1）人称代名詞、（2）終助詞・助動詞といった文末表現、（3）感動詞、以上の3種類を挙げている。また、麻（2019）は、『ドラゴンクエスト3』というテレビゲームの調査を通して、「なんか」のような副助詞や「けれど」のような接続助詞なども役割語的要素である可能性を示した。一方、小説における表記（仮名の用法など）と役割語との関係については、金水（2018a）などによる考察がある。

役割語とキャラクターの機能に関する研究には、金水（2017、2018b）が挙げられる。金水（2017）は、ヴォグラ（2002）のアーキタイプという概念を取り入れ、アニメ作品『風の谷のナウシカ』をケーススタディとして、キャラクターを3つのクラスに分類し、それと物語の構造との関係を分析する方法を提示した。金水（2018b）は、同じ手法

で村上春樹の『海辺のカフカ』を分析したものである。本稿では、村上春樹の『1Q84』を対象に、計量的アプローチを用いて、役割語とキャラクターの機能との関係を明らかにする。従来の内省による方法に比べ、計量的アプローチにはより客観的にデータを分類できるメリットがある。

### 3 調査概要

調査資料は、村上春樹の長編小説『1Q84』にする。その理由は、物語の構造を分析するため、ある程度長いストーリーでないと構造が見出しにくいからである。また、これまでの先行研究にも村上春樹の作品について調査したものがあるため、比較しやすいメリットもある。小説本文のテキストは、村上（2009a、2009b、2010）を使用する。

調査対象は原則的にすべての登場人物の会話文とするが、発話数が極端に少ないキャラクターは計量的な分析に向いていないため除外する。『1Q84』で登場した人物は40種類以上存在するが、本稿では最終的に統計処理に用いるキャラクターは、NHK 集金人、あゆみ、コウモリ、タマル、パーの男、ふかえり、リーダー、リトル・ピープル、太田、大村、小松、不動産屋、天吾、牛河、弁護士、田村、安田、安達、戎野、医者、青豆、運転手、緒方、編集者、穂田、以上の25名である。

### 4 調査方法

役割語とキャラクターの機能との関係を見るため、キャラクターを「機能」と「役割語」との2つの観点で分類する必要がある。前者に関しては金水（2017）の方法に倣い、ヴォグラ（2002）のアーキタイプの観点でキャラクターを3つのグループに分類する（本稿の5節）。後者に関しては、コレスポネンシス分析という統計手法を取り入れ、キャラクターの分類を行う（本稿の6節）。前者の分析手順は金水（2017）を参照されたい。以下は主に後者の手順について詳述する。

まず『1Q84』の登場キャラクターのセリフをすべてデータ化し、プレーンテキストとして保存する。セリフかどうかを判断する基準はかぎ括弧の中にあるかによる。その際、該当セリフのキャラクター名も明記する。

次に、調査対象の役割語候補を抽出する準備作業として、セリフを形態素解析器で処理する。解析器はMeCab 0.993、辞書はUniDic1.3.12を使用する。処理の結果は形態素相当の短い単位のデータであるが、形式用言だけを長い単位に整形する。これは、例えば「言っとくけど」の「とく」は助動詞<sup>1</sup>1語として解析されるものの、「ておく」は接続助詞「て」と動詞「おく」の2語に分断されるため、その分割における不均一性を減らすためである。

続いて、MS-EXCELのピボットテーブル機能を用いて、キャラクターと形態素解析後

---

<sup>1</sup> 形態素解析の目的は役割語抽出であるため、UniDicの品詞付与の言語学的意義の有無は議論しない。



の単語とのクロス表を作成する。単語を集計する際は、コーパス言語学でよく用いる語彙素レベルではなく、表記形レベルで行う。その理由は、語彙素で集計すると、「わし／わたし」がすべて「私」としてまとめられ、役割語を区別する手掛かりが無くなるからである。また、表記形にしたのは、平仮名・片仮名・漢字による表記の違いを反映させるためである。

最後に、役割語とキャラクターとの関係を観察するため、コレスポンド分析<sup>2</sup>という統計手法を用いる。2節で述べたように、これまでの先行研究では、役割語はある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）によるもので、特に人称代名詞や文末表現に現れやすいとされているが、金水（2018a）、麻（2019）でも述べられたように、表記や副助詞・接続助詞なども一種の特徴的な話し方を示す手段である。そのため、本稿では統計の特徴量として、人称代名詞・副助詞・接続助詞・終助詞・助動詞・感動詞の量的分布を用いる。表記の違いについては表記形による集計で反映できると思われる。

## 5 キャラクターの機能による分類

本節では、『1Q84』のキャラクターをアーキタイプの観点で分類する。その前に、全体の物語の構造を把握する必要がある。以下、この作品の概要とあらすじを述べておく。

『1Q84』は、村上春樹の12作目の長編小説で、BOOK1、BOOK2、BOOK3の3冊からなる。新潮社より2009年にBOOK1とBOOK2、2010年にBOOK3が刊行された。執筆の動機は、地下鉄サリン事件などの特定の主義主張による精神的な囲い込みの脅威に対抗するためだと作者本人が語っている。物語の構成として、BOOK1とBOOK2は、スポーツインストラクターをしながら暗殺者の顔を持つ青豆を描く奇数章と、予備校の数学講師をしながら小説の執筆活動をする天吾を描く偶数章とに分かれる。BOOK3に牛河というキャラクターを描く章も加わったが、基本的に天吾と青豆の2人を描写する小説である。以下、ストーリーの展開を天吾と青豆に分けて簡潔にまとめる。

天吾は予備校の数学講師であり、小説家も志している。ある日、出版社の友人である小松に『空気さなぎ』の加筆修正をするという仕事を頼まれ、その小説の元の作者である女子高生のふかえりと出会った。ふかえりは両親とともに山梨にある宗教法人「さきがけ」で育ったが、10歳の時に逃亡して、父の友人である戒野のもとに身を寄せている。『空気さなぎ』のゴーストライターとして成功した天吾は、「さきがけ」の内部の秘密であるリトル・ピープルの存在を小説で暴いたため、教団に狙われるようになった。逃げ回った結果、小学生のときに離ればなれになった青豆との再会を果たした。

青豆はスポーツクラブのインストラクターをしながら、暗殺の仕事もしている。ある日、緒方という老婦人の手助けとしてDVに悩む女性を救うため、「さきがけ」のリーダーを

---

<sup>2</sup> コレスポンド分析は多変量解析の一種で、その主な目的は、分析対象となる複数の変数をもつ情報を要約し、それらを2次元の散布図に表すことで変数を分類することである。



暗殺することになった。そのリーダーとは、ふかえりの父親である（すなわち、天吾と青豆を結びつけるのはふかえりということになる）。リーダーの暗殺に成功した青豆は教団に命を狙われ、その捜査をするのが牛河である。逃げ続けた結果、天吾と再会できた。

以上の物語の構造に基づき、『1Q84』のキャラクターをアーキタイプで分類してみる。まずは金水（2017）の3つのクラスの分類を確認する。

クラス1：主人公および準主人公。登場頻度が高く、また内面描写も豊富である。受け手の自己同一化はこのクラスのキャラクターに誘導しなければならないので、あまり奇抜な特徴づけは行われない場合が多い。したがって言葉遣いも、標準語を基調とする、役割語度の低い話し方となることが多い。

クラス2：メンター、同調者、敵対者、トリックスター、変貌者、影といったアーキタイプに属する重要なキャラクターがここに位置する。個性的であるが、内面描写はクラス1の人物より少なく、「他者」として立ち現れる人物たちであると言える。言葉の面では、典型的な役割語（標準語を含む）が用いられる場合が多いが、一方で、通常の役割語からずらしたり、重ねたり、あるいはまったくそれまでに例のないユニークな話し方をさせる場合もある。

クラス3：ほぼ一回登場したらそれっきりの人物であり、従って名前が現れることもまれである。あらゆる属性において、環境になじんで目立たないことが一番の特徴である。言語の面では、役割に応じた一番無難な（典型的な）役割語（標準語を含む）を使用することが基本である。（金水 2017：246）

この基準に従い、『1Q84』のキャラクターを分類した結果が以下の〔表1〕である。

〔表1〕キャラクターのアーキタイプによる分類

分類	細分	アーキタイプ	キャラクター名
クラス1		主人公	天吾、青豆
クラス2	クラス1に近い (クラス1.5)	メンター	ふかえり、緒方
		同調者	タマル
		敵対者	牛河
クラス2		同調者	戎野、小松
		トリックスター	あゆみ
		変貌者	安田
クラス2		敵対者	リーダー、穂田
		影	リトル・ピープル
クラス2	クラス3に近い (クラス2.5)	同調者	田村、大村
		トリックスター	安達
		変貌者	NHK 集金人
クラス3			太田、コウモリ、弁護士、医者、運転手、不動産屋、バーの男、編集者

小説の奇数章と偶数章で天吾と青豆が交代で描写されており、2 人とも旅の中で成長し、最終的に再会を果たしたため、どちらもクラス 1 に属する主人公だと思われる。

ふかえりに関しては、前述したように 2 人の主人公を結びつける存在なので、天吾を導くメンターという役割に当たる。ふかえりが天吾を導く役ならば、老婦人の緒方は青豆を導く役と言えよう。タマルは青豆にとって同調者である一方、牛河は天吾と青豆の立場から見て敵対者である。上に挙げた 4 人は作中での描写の量が多く、クラス 1 に近いクラス 2（以下、クラス 1.5 とする）だと考えられる。

戒野と小松は天吾に協力する立場なので、同調者である。あゆみは青豆にとって、友人の死の意味を再度考えさせる人物なので、トリックスターである。安田は天吾の年上のガールフレンドであり、途中から消えた存在で、変貌者である。リーダーと穂田は、「さきがけ」側の人物で、主人公側から見ると敵対者である。そして、この物語で悪の根源であるリトル・ピープルが影である。これらの人物をクラス 2 に分類した。

看護師の田村、大村、安達は登場頻度が高くないが、安達だけが物語の後半で天吾の考えに影響を与えたため、トリックスターにした。NHK 集金人は捉えどころのない存在で、変貌者である。これらをクラス 3 に近いクラス 2（以下クラス 2.5 とする）に入れた。

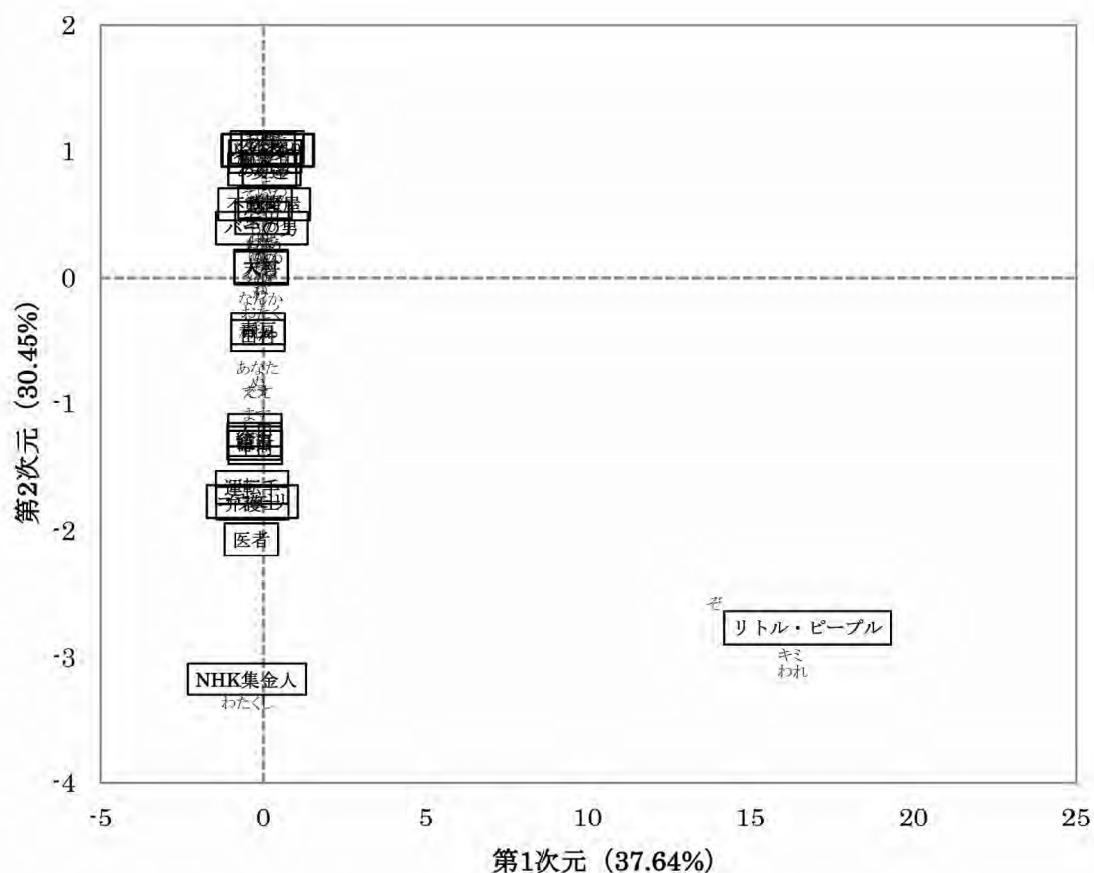
太田、コウモリ、弁護士、医者、運転手、不動産屋、バーの男、編集者はほとんど一回きりの登場人物で、太田とコウモリ以外は名前もなく、クラス 3 に該当するだろう。

断っておきたいのは、先行研究でも言及されたように、キャラクターには複数の役割が存在する場合がある。本稿では各キャラクターの最もメインだと思われる役割に基づいて分類を行ったが、作品の読み方によって異なる分類の見方もあり得る。

次節では、キャラクターと役割語との関係について検討し、本節の結果と合わせて解釈する。

## 6 キャラクターの役割語による分類

4 節で述べた手順に従い、キャラクターの種類をアイテム 1、表記形で集計した人称代名詞・副助詞・接続助詞・終助詞・助動詞・感動詞の単語の頻度をアイテム 2 に、統計分析ソフト R の `corresp` 関数で処理した結果が以下の [図 1] である（第 1 次元と第 2 次元）。

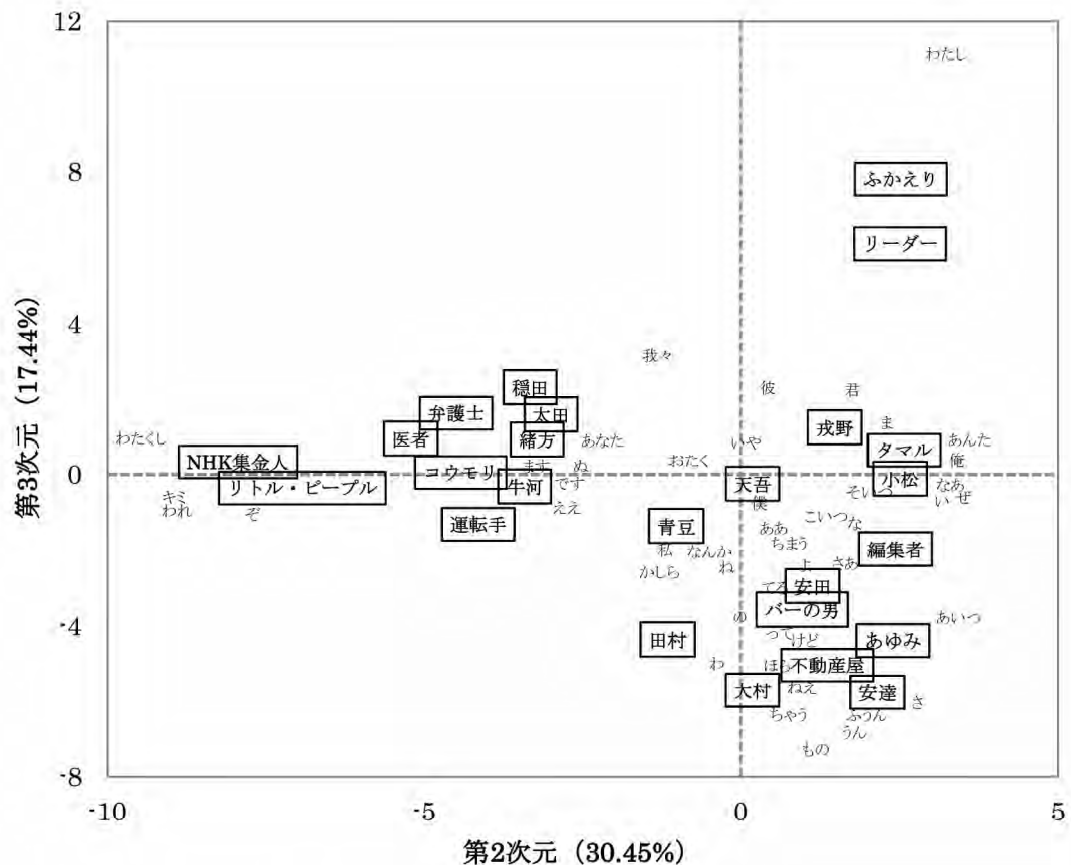


[図 1] 散布図 (第 1 次元と第 2 次元)

[図1]では、右下にクラス2に属するリトル・ピープル(影)のキャラクターが孤立しているのが分かる。原点から大きく離れているのは、このキャラクターの話し方が『1Q84』という作品で最も特徴的であることを意味している。具体的に、1人称代名詞「われ」、2人称代名詞「キミ」、終助詞「ぞ」がその特徴的な表現として観察される<sup>3</sup>。一方、原点を中心に上下に広がっているキャラクターの群が見られるが、密集すぎて分析しにくいので、軸を変えて第2次元と第3次元の結果で改めて検討することにしよう。[図2]を参照されたい<sup>4</sup>。

<sup>3</sup> 第2アイテムの分析に用いた語をすべてプロットするとラベルが重なり、図が見にくくなるため、本稿では散布図を示す際は先行研究で言及された役割語を中心に、さらに特化係数で2以上のものに限る。特化係数に関しては、国立国語研究所（1997）を参照されたい。

<sup>4</sup> 本稿のデータの場合、理論的に 24 つの次元の解を得ることができるが、第 3 次元までの累積寄与率が 85.53%と、8 割を超えているため、第 3 次元まで見れば概ねの傾向が分かると思われる。



〔図 2〕 散布図（第 2 次元と第 3 次元）

〔図 2〕では、右上にクラス 1.5 のふかえり（メンター）とクラス 2 のリーダー（敵対者）がプロットされており、特に 1 人称代名詞「わたし」との関連が強いことがうかがえる。この作品の中で、自称詞を平仮名表記の「わたし」にしたのは、この 2 人しかない。

次に、原点付近に注目しよう。原点に最も近いのは天吾で、そのすぐ左下に青豆がプロットされている。コレスポネンデンス分析では、原点に近ければ近いほど特徴がないことを意味するため、天吾と青豆の話し方はこの作品で最も特徴的でないことになる。2 人はクラス 1 に属しており、金水（2017）はこのクラスを「標準語を基調とする、役割語度の低い話し方となることが多い」と説明したように、本稿の計量的な調査でも同じ結果が確認された。

原点の下から右下にわたって、＜女ことば＞だと思われるキャラクターが集中している。こちらはあゆみ、安田、大村、田村、安達などのクラス 2～2.5 を中心にしたものである。あゆみだけがアーキタイプがトリックスターで、後に述べるように、＜女ことば＞を基調にししながら、＜男ことば＞の特徴も混在するため、少し右上に傾いている。

原点から右のほうにプロットされているのは、戎野、タマル、小松など、＜男ことば＞を話しているキャラクターである。これらのキャラクターはクラス 2 が中心となっている。

原点から左のほうにあるのは、丁寧さを表す助動詞「です／ます」を多用するキャラクターである。この群はさらに2つに分けて見ることができると思われる。原点から比較的遠いのは、弁護士、医者、運転手のようなクラス3のキャラクターである。一方、相対的に原点に近いのは、穂田、緒方、牛河のようなクラス1.5～2.5のキャラクターである。両者に役割語度の違いが見られ、前者は後者より役割語度が高いと考えられる。

以上、概ねの傾向を散布図で確認した。以下、個別のクラスごとに、それぞれのキャラクターに散布図では観察できない特徴があるか考察する。

## 6.1 クラス1のキャラクター

クラス1に分類されたのは天吾と青豆である。[表2]によると、天吾の特徴的な表現として、1人称代名詞「僕」、2人称代名詞「君」が挙げられ<sup>5</sup>、典型的な標準語の話し方に近い。青豆は1人称代名詞「私」、文末表現「かしら／の／わ」が特徴的で、＜女ことば＞ではあるが、感動詞と文末表現のバリエーションから見て、クラス2か3の女性キャラクターほど典型的ではない。金水（2017）に、クラス1のキャラクターは受け手の自己同一化を誘導する役割があり、奇抜な特徴づけは行われにくいとの説明があるが、5節のコレスポネンダンス分析の結果でも2人が特徴のない原点付近に位置付けられ、主人公らしい話し方である。

- (1) 「僕が君の作品を書き直すとする」（天吾, BOOK1, p.94）
- (2) 「なんだか気が進まないみたいね。私じゃ不足かしら？」（青豆, BOOK1, p.116）
- (3) 「じゃあ私の方から言うわ」（青豆, BOOK1, p.248）

【表2】クラス1のキャラクターの特徴語

キャラ名	アーキタイプ	人称代名詞			感動詞	文末表現		特徴
		1人称	2人称	3人称		助動詞	終助詞	
天吾	主人公	僕	君					<標準語>
青豆	主人公	私					かしら、の、わ	<女ことば>

## 6.2 クラス1.5のキャラクター

クラス1.5に分けられたのはふかえり、緒方、タマル、牛河である。[表3]では、ふかえりは1人称代名詞を平仮名表記の「わたし」を用いる。先行研究でもすでに言及されたように、ふかえりは漢字を一切使用せず、難しい単語を片仮名で表現するなど、表記面において非常に特徴的なキャラクターである。彼女はストーリー上メンターという重要

<sup>5</sup> 副助詞・接続助詞の特徴的な表現は一部の女性キャラクターに限られているため、[表2]ではこれらを除外して表示する。[表3]以降も同様である。



な役割を持つ人物であり、金水（2017）がクラス 2 に対する説明で「通常の役割語からずらしたり、重ねたり、あるいはまったくそれまでに例のないユニークな話し方をさせる場合もある」との記述があるが、正にふかえりのことであろう。コレスポンドンスの散布図で離れた場所にプロットされたのもそのためである。

(4) 「わたしたちはセンセイにあいにいく」(ふかえり, BOOK1, p.180)

(5) 「そう。あなたはそのホンをよんだ」(ふかえり, BOOK1, p.461)

緒方は気品が高く、丁寧なく女ことば>を話すイメージである。タマルは気性が強く、特に人称代名詞では荒っぽい<男ことば>の特徴を帯びている。牛河は、丁寧な標準語を話すイメージである（自称詞は「私」だが、特徴語にはなっていない）。タマル以外の 2 人の話し方は金水（2017）で言及された「典型的な役割語（標準語を含む）に何か変化を加えたもの」というクラス 2 に関する記述に当てはまる。コレスポンドンス分析では、原点と周辺の間位置付けられていることもその裏付けである。

(6) 「あなたと私とは信頼し合っている。そうですね？」(緒方, BOOK1, p.387)

(7) 「ひとつ質問をしてよろしいかしら？」(緒方, BOOK1, p.240)

(8) 「俺としては、できることならあんたを失いたくない」(タマル, BOOK2, p.29)

(9) 「時間はある。時間を潰すのが俺の仕事の一部だからな」(タマル, BOOK2, p.26)

(10) 「具体的なことまでは私にもわかりません」(牛河, BOOK2, p.138)

(11) 「ぐずぐずしている暇はない。それは重々承知しております」(牛河, BOOK3, p.12)

【表 3】 クラス 1.5 のキャラクターの特徴語

キャラ名	アーキタイプ	人称代名詞			感動詞	文末表現		特徴
		1 人称	2 人称	3 人称		助動詞	終助詞	
ふかえり	メンター	わたし	あなた					<標準語> (+仮名表記)
緒方	メンター	私	あなた			ます、ぬ	かしら	<女ことば> (+丁寧)
タマル	同調者	俺	あんた、 おたく	そいつ			な	<男ことば>
牛河	敵対者		おたく	こいつ	ああ、いや、 ええ	です、ま す、ぬ		<標準語> (+丁寧)

### 6.3 クラス 2 のキャラクター

クラス 2 に分類されたのは戒野、小松、あゆみ、安田、リーダー、穂田、リトル・ピープルである。まずはリーダーとリトル・ピープルを検討する。この 2 人の話し方はコレスポンドンス分析では原点から大きく離れて、ほかと比べて相対的に特殊である。[表

4] では、リーダーは1人称代名詞「わたし」、2人称代名詞「君」という標準語が基調だが、1人称代名詞の表記が平仮名になっている点では、ふかえりとの共通点が見られる。また、リトル・ピープルは1人称代名詞「われ」（基本的に複数形の「われら」）、2人称代名詞「キミ」（片仮名で表記するのはこのキャラクターのみ）、文末表現「ぞ」を用いるなど、この作品の中でほかのキャラクターに見られない、最もユニークな話し方をしている。「われ」は古語の1人称代名詞で、これも金水（2017）で言及されたように、通常の役割語からずらしたり、重ねたりしたクラス2のキャラクターの一例だと思われる。

(12)「それからわたしの身体の筋肉はしばしば硬直する」(リーダー, BOOK2, p.195)

(13)「そのとおり。君が作った言葉だ」(リーダー, BOOK2, p.249)

(14)「つまりドウタはわれらの通路になるぞ」(リトル・ピープル, BOOK2, p.412)

(15)「そしてキミはマザと呼ばれる」(リトル・ピープル, BOOK2, p.411)

戎野は元教授で、教養のある人だと思われる。特徴語にはなっていないが、自称詞が「私」で、表記面を除けばリーダーと同じく標準語に近い話し方をしている。小松は、1人称代名詞「俺」、文末表現「ちまう／ぜ／な」などを使用し、完全に＜男ことば＞の特徴になっている。あゆみと安田は、感動詞「ねえ、ほら」や文末表現「もの」などから、典型的なく女ことば＞の特徴がうかがえるが、あゆみのほうは3人称代名詞「あいつ／こいつ」を用いるので、少し荒っぽいイメージを帯びている。穂田は牛河と類似しており、丁寧な標準語を話している印象であるが、リーダーと同じように自分が所属する教団全体を指すときに、よく演説で現れる「我々」を用いる点にも注目すべきであろう。この段落に挙げたキャラクターは、コレスポネンシス分析では周辺にプロットされるものがほとんどで、典型的な役割語（標準語を含む）として位置付けることができる。

(16)「私はエビスノというものです」(戎野, BOOK1, p.212)

(17)「何はともあれ、君は正直な人間らしい」(戎野, BOOK1, p.217)

(18)「そのへんは俺がすべての責任をとるよ」(小松, BOOK1, p.124)

(19)「お互いしっかりやろうぜ」(小松, BOOK1, p.357)

(20)「ねえ、何を飲んでるの？」(あゆみ, BOOK1, p.244)

(21)「そういうのって私、好きだよ。びりびりきちやうね」(あゆみ, BOOK1, p.527)

(22)「あいつらはね、忘れることができる」(あゆみ, BOOK1, p.525)

(23)「それで、私はその話の中に出てくるかしら？」(安田, BOOK1, p.550)

(24)「身体の具合が思わしくないの」(安田, BOOK1, p.125)

(25)「ねえ、どうしたの？もう出しちやうたの？」(安田, BOOK1, p.312)

(26)「けっこうです。それが我々の聞いたかったことです」(穂田, BOOK2, p.152)

(27)「あなたはそれを収入として申告する必要はありません」(穂田, BOOK2, p.317)

【表 4】 クラス 2 のキャラクターの特徴語

キャラ名	アーキタイプ	人称代名詞			感動詞	文末表現		特徴
		1 人称	2 人称	3 人称		助動詞	終助詞	
戎野	同調者		君	彼	いや			<標準語>
小松	同調者	俺	君	こいつ、 そいつ	なあ	ちまう	ぜ、い、な	<男ことば>
あゆみ	トリックスター			あいつ、 こいつ	うん、ねえ、 ほら、ふうん	ちゃう、 てる	さ、よ、ね、 ん、もの	<女ことば> (+荒っぽい)
安田	変貌者	私			ねえ、ほら	ちゃう	わ、の、か しら、もの	<女ことば>
リーダー	敵対者	わたし、 我々	君	彼				<標準語> (+仮名表記)
穂田	敵対者	我々	あなた	彼		です、ま す、ぬ		<標準語> (+丁寧)
リトル・ ピープル	影	われ	キミ				ぞ	<男ことば> (+古語) (+仮名表記)

#### 6.4 クラス 2.5 のキャラクター

クラス 2.5 には、看護師 3 人組の田村・大村・安達と、NHK 集金人が入っている。前者の 3 人はすべて<女ことば>を使用しており、後者は丁寧な標準語を話しているイメージである。この 4 名はコレスポネンシス分析の散布図で原点から遠く離れたところに分布しており、役割語度の高いものだと考えられる。

- (28) 「でも天吾くんは偉いわよ」(田村, BOOK3, p.124)
- (29) 「私も少しここで朗読を聴いていていいかしら」(大村, BOOK3, p.105)
- (30) 「ねえ、川奈さんがさきほど亡くなったの」(安達, BOOK3, p.425)
- (31) 「わたくしは長くこの仕事をしております」(NHK 集金人, BOOK3, p.164)

【表 5】 クラス 2.5 のキャラクターの特徴語

キャラ名	アーキタイプ	人称代名詞			感動詞	文末表現		特徴
		1 人称	2 人称	3 人称		助動詞	終助詞	
田村	同調者					てる	わ、の、よ、ね、もの	<女ことば>
大村	同調者					ちゃう、 てる	の、よ、ね、な、かし ら、もの	<女ことば>
安達	トリックスター	私			うん、ねえ、 ふうん	ちゃう、 てる	さ、の、よ、ね、な	<女ことば>
NHK 集 金人	変貌者	わたく し	あなた			ます、で す、ぬ		<標準語> (+ 丁寧)

## 6.5 クラス3のキャラクター

クラス3に分類されたのは一回きりの登場人物が多い。[表6]を見れば、太田、コウモリ、弁護士、医者、運転手はすべて丁寧な標準語を話している（特徴語にはなっていないが、1人称代名詞はほぼ「私」）ことが分かる。これらの人物は、最も役割語度が高く、コレスポネンシ分析では原点から遠く離れた周辺にプロットされている場合が多い。

(32) 「私としてもできる限りの努力はしました」(太田, BOOK3, p.206)

(33) 「今お話ししてもかまいませんか?」(コウモリ, BOOK3, p.136)

(34) 「お父様から遺言状を託されております」(弁護士, BOOK3, p.437)

(35) 「正直なところ、それは私にもわかりません」(医者, BOOK2, p.476)

(36) 「ひょっとしてお急ぎですか?」(運転手, BOOK1, p.17)

不動産屋、バーの男、編集者はセリフが少なく、特徴語をあまり抽出できなかったが、個別に用例を確認すると、不動産屋と編集者の自称詞から見て、＜男ことば＞を話していると思われる。バーの男は、途中から丁寧語を使わなくなったが、標準語をベースとした話し方だと判断できる。この3キャラクターは用例数が少なく、コレスポネンシ分析でのプロット位置は少し信頼性が低いと考えられるため、あえて解釈しないことにする。

(37) 「あんたは手頃な家賃のアパートを探しておるんだね?」(不動産屋, BOOK3, p.78)

(38) 「俺だけじゃない。社内でも多くの人間がそう感じている」(編集者, BOOK2, p.346)

(39) 「君は若くてきれいだし、私はたぶん君の父親に近い…」(バーの男, BOOK1, p.116)

[表6] クラス3のキャラクターの特徴語

キャラ名	アーキタイプ	人称代名詞			感動詞	文末表現		特徴
		1人称	2人称	3人称		助動詞	終助詞	
太田						です、ます、ぬ		<標準語> (+丁寧)
コウモリ						です、ます、ぬ		<標準語> (+丁寧)
弁護士						です、ます		<標準語> (+丁寧)
医者						です、ます、ぬ		<標準語> (+丁寧)
運転手						です、ます、ぬ	ね	<標準語> (+丁寧)
不動産屋					ああ		さ、ね	
バーの男							な、か	
編集者							よ、ね	

## 7 まとめと今後の課題

『1Q84』のキャラクターの人称代名詞や文末表現などの頻度を統計の特徴量にして、コレスポンデンス分析を適用した結果、キャラクターの特徴的な表現の分布状況を散布図で表し、キャラクターの機能との関係を従来の内省による方法より客観的に捉えることができた。結論として、(1) 原点に近いキャラクターは、標準語のような、話し方がそれほど特徴的でない人物で、アーキタイプで言うとクラス1の主人公（天吾／青豆）がこれに該当する、(2) 周辺にプロットされているのは、通常の役割語から少しずれたような、最も特徴的な話し方をしているキャラクターであり、重要な役割を持つ少数のクラス2のキャラクター（ふかえり／リーダー／リトル・ピープル）がこれに当たる、(3) 原点と周辺の間にプロットされているのは、最も典型的な役割語を話すような、一部のクラス2のキャラクター（タマル・小松・安田・安達など）、または登場回数が少ないクラス3のキャラクター（弁護士・医者・運転手など）である、以上の3点が言える。

計量的な調査方法では、頻度の低いものの分析結果が不安定になるため、発話量が少ないキャラクターの特徴は、内省による考察と総合的に解釈することが必要だと思われる。また、今回の調査はあくまでも『1Q84』という一作品の分析結果であり、方法論として有効かどうかは異なる作品に対しても同じ考察をした後、改めて議論する必要がある。これらの点に関しては今後の課題とする。

### 参考文献

- ヴォグラール・C（岡田勲・講元美香訳）（2002）『夢を語る技術 5 神話の法則—ライターズ・ジャーニー』ストーリーアーツ&サイエンス研究所
- 金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
- 金水敏（編）（2014）『＜役割語＞小辞典』研究社
- 金水敏（2017）「言語—日本語から見たマンガ・アニメ」山田奨治（編）『マンガ・アニメで論文・レポートを書く—好きを学問にする方法—』ミネルヴァ書房
- 金水敏（2018a）「小説における仮名の一用法と翻訳—村上春樹作品を例に—」『ことばと文字 10』くろしお出版
- 金水敏（2018b）「キャラクターとフィクション 宮崎駿監督のアニメ作品、村上春樹の小説をケーススタディとして」定延利之（編）『「キャラ」概念の広がりと深まりに向けて』三省堂
- 国立国語研究所（1997）『テレビ放送の語彙調査Ⅱ—語彙表—』国立国語研究所
- 麻子軒（2019）「計量的アプローチによる役割語の分類と抽出の試み—テレビゲーム『ドラゴンクエスト3』を例に—」『計量国語学』32-2

### 調査資料

- 村上春樹（2009a）『1Q84 BOOK1』新潮社
- 村上春樹（2009b）『1Q84 BOOK2』新潮社



村上春樹（2010）『1Q84 BOOK3』新潮社

# 村上春樹作品と日本語史の「共鳴」<sup>†</sup>

## —『騎士団長殺し』騎士団長の「あらない」再考—

金水 敏

(大阪大学)

### 1 はじめに

村上春樹氏の最新長編小説『騎士団長殺し』（新潮社刊。第1部 現れるアイデア編、第2部 遷ろうメタファー編、2017年）には、「騎士団長」（＝アイデア）というユニークなキャラクターが登場し、変わった話し方をする。特に、「ある」の否定形として「ない」ではなく「あらない」を用いるが、その着想をどこから得たのか、村上春樹氏は明らかにしていない。本稿では、日本語史の観点からこの騎士団長の台詞における「あらない」の淵源を探り、併せて役割語の観点から見た騎士団長の人物像について考察する。

まず、『騎士団長殺し』の概要を述べる。肖像画家である「私」は、突如6年間共に暮らした妻（ユズ）に離婚を切り出され、家を出て自家用車で東北地方を放浪したのち、友人の雨田政彦の紹介で政彦の父の高名な日本画家、雨田具彦の小田原の谷間の家に住むことになる。この家で、具彦の未公開の「騎士団長殺し」と題された絵を発見し、また免色渉という謎めいた裕福な男性や、秋川まりえという13歳の少女と関わりを持つ。さらに、家の裏の祠に積まれた石を取り除いたことをきっかけに、具彦の絵の「騎士団長」の姿をした“アイデア”や、「顔なが」の姿をした“メタファー”の出現を目にする。

### 2 騎士団長の特徴

騎士団長（アイデア）の話し方を含めた特徴は以下の通り。

- ① 身長60cmほど。絵に描かれた騎士団長と同じく、飛鳥時代の貴族階級の姿をしている。
- ② 「私」と秋川まりえの目にしか見えない。
- ③ 自称は「あたし」、対称は単数でも「諸君」（複数は「諸君ら」）。
- ④ 非丁寧体で、終助詞としてしばしば「ぜ」を用いる。
- ⑤ 「いる」ではなく「おる」を使う。断定の助動詞は「だ」。

<sup>†</sup> 本稿の原文は、中村三春（監修）・曾秋桂（編集）『村上春樹における共鳴』pp. 29-40（淡江大学出版中心、2019年）に所収のものである。本報告書に収録するにあたり、表記を一部改め、また新たに章末に補注を施した。

- ⑥ 形容詞「ない」の代わりに「あらない」という語形を用いる。
- ⑦ 動詞の打ち消しにしばしば「ん」を用いる。

騎士団長の話し方の例を示す。

- (1) 「良い質問だ」と騎士団長は言った。そして小さな白い人差し指を一本立てた。「とても良い質問だぜ、諸君。あたしとは何か？ しかるに今はとりあえず騎士団長だ。騎士団長以外の何ものでもあらない。しかしもちろんそれは仮の姿だ。次に何になっているかはわからん。じゃあ、あたしはそもそもは何なのか？ ていうか、諸君とはいったい何なのだ？ 諸君はそうして諸君の姿かたちをとっておるが、そもそもはいったい何なのだ？ そんなことを急に問われたら、諸君にしたってずいぶん戸惑うだろうが、あたしの場合もそれと同じことだ」 (第1部、p. 351。下線は引用者)

### 3 「あらない」に関する日本語史

#### 3.1 『おあむ物語』の「あらない」

「あらない」については、文部省（大槻文彦）（1917）『口語法別記』で『おあむ物語』に用例があることを指摘し、「「あらない」わ（ママ）珍らしい」と注記している（253頁）。

- (2) くびもこはいものでは。あらない。その首どもの血くさき中（なか）に。寝（ね）たことでおじやつた。（『おあむ物語』2丁裏）

『おあむ物語』は、慶長5（1600）年の関ヶ原の役に、石田三成の大垣城で落城の悲惨な体験をした女性（山田去暦の娘、後に雨森儀右衛門の妻）の話を8～9歳の折に聞いた者が後に筆録したもので、筆録者は不明。現存する写本はすべて、享保15（1730）年3月27日付けの谷垣守の識語を付した系統のものばかりである。版本は、天保8（1837）年、浅川善庵が『おきく物語』と合綴して上梓したものである。（2）の本文も、天保8年の版本によっている（以下、天保八年版本と称する）。

橋本四郎（1959）では、『おあむ物語』に「あらない」の用例があることの指摘があるものの、歴史的な実体としての存在に疑問を呈している。

- (3) （『おあむ物語』の）口述者の老尼は、彦根で幼時を過ごした人である。現在の方言境界線が当時にもそのままあてはまるか否か直ちに断を下せないし、彼女の言語環境も不明であるとしても、まず上方方言圏に育った人と見ておいてよかろう。その上方

では、室町末期から江戸初期にかけては、全ての国語史概説書に説くように、ズ系統のもの及びナンダが用いられ、ナイは見られない。(中略) どの途アラナイという形の発生する蓋然性は極めて薄かったと考えざるを得ない。「おあむ物語」でも、否定の判断を表現しつつ名詞を述語化する手段として前掲の(1)があり、これに類した表し方が普通の語法であったと見てよい。

とすれば珍重されているアラナイの例は、筆者の誤りか、もしくは文字化する場合の規範化に伴うある種の回帰現象によるもので、一般性を持った語法としては認めがたいとせねばならない。依然としてアラナイはあらないと考えた方がよさそうだ。(pp. 318-319)

この点について、菊池(1984)の解説に転載された、三谷栄一氏旧蔵本・明治38年写本(以下、「三谷本」とする)『おあむ物語』に「首もこはひ物ではおりない」(下線は引用者による)とあることが参考になる。三谷本は天保八年版本より書写年代が遥かに下る訳であるが、『おあむ物語』の本来の姿を伝えている可能性は十分にある<sup>1</sup>。ことに「おりない」という表現は、16世紀末から17世紀にかけての京阪の語形として「あらない」より遥かに相応しい語形である。なぜならば、「あらない」の「ない」は動詞未然形に付く打ち消しの助動詞であり、大垣を含む近畿圏では当時用いられなかったはずであるのに対し、「おりない」は「お入りない」を語源に持つ表現で、「ない」は形容詞である。現に、同時代の狂言古本やキリシタン本には「おりない」の用例が多数見られる。また「おりない」と「あらない」は筆写の際に紛れやすいことも指摘できる。この推測に基づくならば、『おあむ物語』の「あらない」は「おりない」であった可能性が高い、ということになる。

### 3.2 奴言葉の「あらない」

しかしながら一方で、天保八年版版本が作られた時点で、存在しない「あらない」という形態を版下の製作者が無条件に採用することも考えにくい。版本の版下製作者、あるいはそれ以前のどれかの段階の、書写者の知識の中には「あらない」も存在していた可能性を考えなければならないだろう。ここで、以下のような近世浄瑠璃床本に「あらない」の用例が見えることが参考になる(章末補注参照)。

- (4) 「身が切り米イは十二文ンひんねち紙の灯明代。本社拝殿玄関前賽銭箱の皮覆。金紋大総(ぶさ)かくれあらない受領神にぶつ仕へる。鳥井の馬場先かゞとうしつかとぶ

<sup>1</sup>三谷本識語には次のようにある。「此書いつの頃誰が書し事を知らず今世に流布する本には言葉数多しそは後人の書加へたる物なり此書は谷垣守先生自筆を以て書写す」(菊池 1984, 10 頁)

んつけた。二合半の小豆飯色こそかはれ品こそかはれ。（「蘆屋道満大内鑑」第四、角田一郎・内山美樹子（校注）『竹田出雲 並木宗輔 浄瑠璃集』新日本古典学大系、119 頁）

※ 脚注に「前の「あらない」「ぶつ仕へる」も奴言葉。」とある（120 頁）。

このシーンは、「信田森二人奴の段」と呼ばれ、与勘平と野干平（後者は白狐が化けたもの）という二人の「奴」が活躍をして石川悪右衛門の手から葛の葉・晴明親子を守るという場面であり、二人の奴が使う「奴言葉」が聞かせどころである。奴言葉とは、当時武家に使えた中間らが用いたとされる、関東方言に影響を受けた威勢のいい言葉づかいで、「六法言葉」とも言われる。「蘆屋道満大内鑑」のこの段でも、「任せてをけろ」「奴がやらない」「さうださうだ」というような関東語脈を用いた台詞が用いられており、そのなかで「あらない」も自然に溶け込んでいる。このことを踏まえると、「蘆屋道満大内鑑」が上演された享保 19 年（1734 年）以降であれば、武家にまつわる表現のなかに「あらない」があってもおかしくないという知識が存在したと言える。

### 3.3 関東方言としての「あらない」

ここで、方言調査に現れた「あらない」について言及しておく。今日、「あらない」という語形を直接方言に求めることは困難であるが、神奈川方言において「仕方が無い」という意味である「ショーガンネー」という表現に「あらない」の痕跡が認めうることを田中ゆかり氏（日本大学文理学部教授）にご教示いただいた。例えば日野（1984）には次のようにある。

- (5) ショーガネーのような形はショーガンネー [ʃo:ŋanne:] として固定し、[n]が挿入されるが、これはもともと [ʃo:ŋarane:] から変化したものらしい。（p. 288）
- (6) 私の「昭和中期調査」で、神奈川県湘南地方にこの語形（ショーガラナイ）が発見されている。日野資純。斎藤義七郎『神奈川県方言辞典』（昭和四〇年）参照。（p. 302）

これは極めて断片的な証拠だが、かつて関東方言に「あらない」という語形が存在していたことをうかがわせるものである。ここに、奴言葉の関東語脈から方言への連続性が想像できるであろう（章末補注を参照）。



### 3.4 近代書き言葉の中の「あらない」

一方で、上に見たような関東方言の文脈とは区別されるべき、近代書き言葉の一現象として「あらない」を認めることができる。橋本進吉（1939）『新文典別記口語篇』では「大家」の「枚挙に遑（いとま）あらない」という言い方を誤用であると指摘している。

- (7) 『ない』は右のやうに未然形につきますが、ただ一つ例外があつて、「ある」の未然形「あら」にはつきません。某大家の文に「枚挙に遑あらない」とありましたが、こないひ方は正しくありません。かゝる場合には「遑がない」といひます。（橋本進吉 1939: 57）

この「某大家」とは徳富蘇峰のことであるらしく、彼の筆癖としてしばしば用いていたもののようである（岡島昭浩氏ご教示）。

- (8) 我国に於ても、聖徳太子以来、奈良朝、平安朝、鎌倉、室町時代に至るまで、寺院が庄園の主であり、市場の持主であり、専売特許権の所有主でありたる例は、固より枚挙に遑あらない。（蘇峰生 大阪毎日新聞 1932. 6. 23（昭和7））

徳富蘇峰は肥後国上益城郡杉堂村（現熊本県上益城郡益城町上陳）の生まれとして知られているので、「あらない」が自身の方言の干渉であるとは考えにくい。おそらくは、新たな近代の言文一致体の文末表現として創出されたものであろう。

### 3.5 近代戯曲の中の「あらない」

次のような疑似キリシタンことばの用例が木下杢太郎の戯曲に見られる。

- (9) 第一の童子 このお寺は唯のお寺ではあらない。  
妹の順禮 唯のお寺や無いとて坊様が住むお寺やろがな。  
第一の童子 その坊様は眞（まこと）の人間ではあらない。  
妹の順禮 ほほ、眞の人間で無いのやら、そんなら天狗様かいのう。  
第一の童子 いやいや、天狗様でもあらない。もつと怪（け）しいものぢや。  
妹の順禮 分った。そんなら、そりゃ狸やろが。  
第一の童子 狸でもおじやらぬわい。

（木下杢太郎「南蛮寺門前」『木下杢太郎全集』第2巻6頁、岩波書店、1949。下線は引用者）

ここでは、南蛮寺の童子のことばとして「あらない」が用いられている。木下杢太郎はキリシタン資料の収集・研究者として知られているが、実際のキリシタン資料には「あらない」を見いだすことはできないのであり、これは木下が創作した表現であろう。古風でエキゾチシズムを感じさせる表現として採用したのではないだろうか。

#### 4 考察

村上春樹氏が騎士団長の「あらない」をどのように着想したかという点について、ご本人の証言が得られない今の段階では単に推測の域をでないが、以上に見てきた資料から、いくつかの仮説を立てることができる。一つは、村上氏は何も参照せず、何の影響も受けず、ゼロからこの語形を作り出したという仮説である。この説を否定するような証拠がない以上、仮説としては生き続けるであろう。

一方で、何らかの文献からこの語形を見いだして、採用したという仮説もむろん有力であるが、問題はどのような資料に触れたかという点である。現代関東方言にほそぼそと「あらない」の痕跡が生き残っていることは3.3節で見たが、関西出身で大学入学以降は主に東京で生活していた村上氏が生の方言の「あらない」に触れた可能性は低い。また、『おあむ物語』や『蘆屋道満大内鑑』のような古典的文献から採ったとするのも仮定としても苦しいところがある。

そうであるとすれば、近代以降の用例からこの語形の存在に気づき、小説に採用したとする仮説が最も蓋然性が高い。例えば徳富蘇峰の重々しい文体の中にある「あらない」は、威厳がありそうで、しかしどこことなく滑稽な印象を読者に与えるのであり、この点では最も騎士団長のキャラクターに似つかわしい。一方、木下杢太郎の「南蛮寺門前」は、『騎士団長殺し』と北原白秋の色濃い関係（2017年村上春樹国際シンポジウムにおける高橋龍夫氏（専修大学）のご指摘参照）を考えると、白秋と同じ「パンの会」会員の木下杢太郎の作品に触れた可能性も十分ありえるのである。

さて、騎士団長,のキャラクターから、この「あらない」および他の表現がどのように関係してくるか、考えてみよう。「ある」の打ち消しが一般に「ない」であり、「あらない」という語形が事実上現代日本語の空隙となっている事実気づくことができれば、「あらない」はありそうで実はほとんど存在しない空虚で奇妙な表現であり、騎士団長という存在に誠に相応しいものではある。また、騎士団長の話し方は、典型的な〈老人語〉あるいは〈博士語〉（金水 2003）には合致しないものの、類似のものであるとは言える。例えば騎士団長はしっかりあの絵の中で殺されかけておるよ。」（第1部 350 頁）「酒も飲まない。だいいち消化器もついておらんしね。」（第1部 350 頁）等の語法にその特徴が現れ

ている。また、「あたし」「ぜ」は、東京（主に下町）では男性がよく用いたもので、こんにちでは老人語化した印象も与える。全体として、騎士団長の話し方は、明治時代の東京における知識人の話し方を彷彿とさせるものがある。

〈老人語〉〈博士語〉を話すキャラクターの典型的な機能は、「メンター」、即ち主人公に適切な助言を与え、冒険へと旅立たせる役目を持つキャラクターである（金水 2003, 2017）。騎士団長の言葉が総体として〈老人語〉に近いものであるとするならば、「騎士団長殺し」における騎士団長のメンターの位置づけに大変相応しい。村上氏の他作品を例に取るならば、『海辺のカフカ』の「カーネル・サンダーズ」に通じるものがある（金水 2018）。

## 5 さいごに

騎士団長の「あらない」の情報源を詮索することにかかずらい過ぎることはさほど生産的とは言えないが、近世以降の日本語史の中でひょっこりと現れては消えていく、幻の植物のような「あらない」を見いだして、騎士団長という特異なキャラクターに割り当てたことは、その情報源が何であれ、村上氏の手柄と言うべきであろう。ここに、村上春樹作品と日本語史の「共鳴」を聞き取ることができる。「あらない」を含む騎士団長の奇妙な話し方は、この、作品の大きな魅力となって私たちの前にあるのである。

謝辞：本稿をなすに当たって、岡島昭浩氏、小野正弘氏、佐藤貴裕氏、田中ゆかり氏には資料のご教示等多大な恩恵を被った。記して感謝いたします。

## 参考文献

- 菊池真一（1984）『おあむ物語。おきく物語』翻刻・解説、日本文化資料センター。  
金水 敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店。  
金水 敏（編）（2014）『〈役割語〉小辞典』研究社。  
金水 敏（2018）「キャラクターとフィクションー宮崎駿監督のアニメ作品、村上春樹の小説をケーススタディとしてー」定延利之（編）『「キャラ」概念の広がりと深まりに向けて』三省堂。  
橋本進吉（1939）『新文典 別記 口語篇』富山房。  
橋本四郎（1959）「「あらない」はあらない」『女子大國文』9号（『橋本四郎論文集 国語学編』角川書店、1986年刊に所収。317-319頁）。  
日野資純（1984）「神奈川県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一（編集）『講座方言学 5ー関東地方の方言』国書刊行会。  
文部省（大槻文彦）（1917）『口語法別記』大日本出版。

## 補注

### 1. 「心中宵庚申」の用例について

『日本国語大辞典』には、近松門左衛門「心中宵庚申」から「あらない」の用例が挙げられている。文脈を補足して引いておく。

- (i) 坂部郷左衛門、衣服の綺羅（きら）も世につれて、戒（いまし）むるとはなけれども、上（かみ）に従ふ木綿羽織（もめんばおり）に、紺股引（こんももひき）、鷹野出立（でたち）の凜々（りり）しげに、すた／＼と立ち帰り、家来（けらい）ども、掃除は出来たか、ヤアいづれもお見廻（おみまひ）、過分（くわぶん）、いやさ／＼、年は寄るまいもの、岩松村岩水寺（いはまつむらがんすいじ）の門前より、お暇請（いとまう）け、たつた一飛びと思へども、気情（きじやう）も足も心ばかり、さりながら、殿（との）にはいま一拳（ひとこぶし）遊ばし、お入（い）りあるぞ、急（せ）くことはあらない。まづお献立を一見と、永々（ながなが）と書きつけたる、半（なか）ば読みさし（以下略）（『近松門左衛門集②』新編日本古典文学全集 75、小学館、pp. 437-438。下線は引用者）

この「あらない」に対して、長友千代治氏は次のような頭注を付けている。

- (ii) ラ行動詞「あり」の打消は「あらず」のように、ズを接続させるものが普通。『おあん物語』の版本にも、「くびもこはいものではない」とあり、ここは坂部郷左衛門が浜松の武士であるための表現。（p. 438）

近松門左衛門が浜松方言を正確に模していたとは考えにくく、やはり東国の武士の語法としての意識が働いていたとみるべきではないだろうか。なお、このあと坂部郷左衛門の台詞には「あらない」は登場しない。「心中宵庚申」の初演は享保7（1722）年であり、「蘆屋道満大内鑑」よりは12年遡る用例となる。

### 2. 「奴ことば」について

研究社のウェブマガジンLinguaに連載されている『〈役割語〉トークライブ！』第9回「V時代語@時代ならびに翻訳 新春特別対談編」で、金水と田中ゆかり氏がこの「あらない」をめぐる対談している。詳細はリンク先を参照していただくとして、2人の発言の要点を箇条書きにしておく。

(<http://www.kenkyusha.co.jp/uploads/lingua/prt/18/yakuwari1901.html#07>)

- 「蘆屋道満大内鑑」では、丹波出身の「与勘平」が奴ことばを使っている、そこに「あらない」も登場する。また断定は「だ」、命令形は「～ろ」で終わるなど、関東語脈が色濃い（金水）
- 『日本語大辞典』（朝倉書店、2014 年）や『日本語学大辞典』（東京堂出版、2018 年）によれば、「奴ことば」「六方ことば」は、関東方言的なものと古語的な要素を組み合わせた人工語であると書かれている（田中）
- 「あらない」について、神奈川県厚木市生育の神奈川方言話者の田中には語ることがある。「しかたがない」を田中の方言（県央地域の方言）では、「ショーガンナイ」と言う。自分は今でも方言モードでは「ショーガンナイ」を用いる。かつては自分にとってのまったくの「気づかない方言」で、今でもちょっと油断したり高ぶったりすると普通に出る（田中）。
- 卒論執筆のために行った 1986 年の神奈川県県央地区方言調査では、当時の若年層においても「ショーガンナイ」が 1 割弱出てきた。それだけでなく、「ショーガンナイ」の一世代古い形式と推定される「ショーガラナイ」もわずかながら出現した（田中）。
- 「ショーガアラナイ」があったとすると、「あらない」は古い関東方言的要素の疑いが濃い。「ない」をわざわざ「あらない」（「ある」＋「ない」）というもったいつけた言い方が転じたのかも知れない。





## 著者情報

セバスティアン・リンドソグ (Sven Sebastian Lindskog)

大阪大学・大学院文学研究科・博士後期課程

野村 涼 (のむら りょう)

スタンフォード大学・東アジア言語文化学科・博士課程

(Ph.D. student in the Department of East Asian Languages and Cultures at Stanford University)

麻 子軒 (ま しけん)

大阪大学・大学院文学研究科・招聘研究員

金水 敏 (きんすい さとし)

大阪大学・大学院文学研究科・教授

『村上春樹翻訳調査プロジェクト 報告書 (3)』

2020 年 3 月 25 日発行

編集：金水 敏（大阪大学大学院文学研究科）

kinsui@let.osaka-u.ac.jp

発行所：大阪大学大学院文学研究科

編集補助：武内一巴

※この報告書の刊行は、科学研究費助成事業「「役割語・キャラクター言語の翻訳可能性・翻訳手法についての研究」（研究代表者：金水 敏、期間：2019 年度～2021 年度、課題番号：19K00574）に基づいて行われました。



